

MUJINTO

The Alumni Association of Otani University

2012年9月
No.137

無 書 燈



大谷大学同窓会

大谷大学と私



河内昭圓先生に
インタビュー

「禄、その
中にあり」

本学において、永年にわたり教鞭をおとりいただきました河内昭圓先生に、博綜館にお越しいただき、お話を伺いました。

▶本学に入学されたいきさつからお聞かせください。

私は大谷派寺院の次男坊。初めから大学は大谷と決めていました。自然の流れです。だから、高等学校も大谷高校でした。

当時、文学部の定員は200名でしたが、受験者は大体150から160人が普通で、そのうち20から30人が成績不良で不合格となる。高校での私はまあまあの成績だったので、20から30人の中に入るとは思いませんでした。したがって、受験勉強というものをしたことがない。ずいぶんいい加減な答案を書いた記憶がありますから、本当は危ないところであったかもしれませんが、おかげで劣等感を背負わずにすみました。これは大きな幸いでした。

▶当時の大学の雰囲気をお聞かせください。

総じていえば、旧制の雰囲気を残した最後の時代ではなかったかと思えます。赤レンガの本館（尋源館）を中心として、講堂、図書館、旧寮の一部などが点在していました。

構内では白髪をなびかせて平然、間衣・輪袈裟に身を正して厳然、上品に背広を着こなして整然、いつも煙草をくわえて無頼といった老大家に出逢いました。高校では見ない風景で、ここは大学なんだという思いがこみあげ、おもわず頭上の角帽に手をかけたりしたものです。

荒木俊馬・立花勝・曾我量深・金子大榮・正親含英・稲葉秀賢・山口益・横超慧日・野上俊静・多屋頼俊・外村完二、いいでしたら切りがありません。

偉い先生ばかりでした。

学部学生の大半は大谷派寺院の子弟でしたが、大学院には他宗派の院生が相当いたように思います。その頃、仏教系大学で大学院を設置していたのは、京都では龍谷大学と大谷大学だけでした。なかでも大谷は伝統と教員スタッフの面で人気がありました。ここで学んだ人たちの多くが、後に各派の教学や宗門の運営に大きな業績を残しています。

▶先生が学生として聴講された授業で印象に残ったものがありましたらお聞かせください。

荒木俊馬先生ですね。一般教養課程自然科学系列のすべてを担当されていた。「数学」の授業では「諸君は坊主のせがれじゃから、数学なんてしなくてよい」、開口一番そうやってたちまち話しがそれる。それた話柄の広いこと深いこと、古今和漢東西の文学哲学がよどみなく口から噴き出る。「アインシュタインの直弟子でノーベル賞を取ってないのは、わしだけじゃ」というのが自慢話でした。

京都大学から出講いただいていた中国史の宮崎市定先生。両手を後ろに組んで、やや前向き加減に教壇を左右に往来しながら整然と講義される。ときどき組んだ手を解いて、手のひらに握りこんだ小さなメモに目を通される間を除けば、「ええー」「あー」「その」「この」など一切の無駄な言葉がない授業でした。

▶中国文学を専攻されたきっかけをお聞かせください。

その頃のシステムでは、1回生は一般教養課程に専念。2回生になって、初めて専門科目2、3時間の聴講が許されました。

私は国文学を専攻するつもりでおりましたので、多屋頼俊先生の『源氏物語』と斯波六郎先生の『莊子』の講読を聴講しました。『源氏物語』は本来大学院の授業で、みな緊張して固くなる厳しい教室でした。

羽織、袴に身を正した斯波先生が、『莊子』外篇を訓読される響きは今も耳に残っています。

斯波先生は、前期授業の途中でお亡くなりになり、後期からは京大の吉川幸次郎先生が急遽代役をお務めになった。先生の高名はつとに知るところで、スケールの大きな講義でした。

3回生になって専攻を決めるのですが、意志の決定は単純でした。支那学科（当時はまだそう称していた）4回生の先輩の執拗な勧誘に屈したということです。

斯波先生に代わった新任の三木克巳先生は、吉川幸次郎が「ろうこう陋巷のいんくんし隠君子」と評したように、清貧に甘んじ、清楚な身なりの中に強靱な精神力を秘めた

人でした。その先生に専攻届けを提出すると、「今日から、君は専門家だからね」という応えが返ってきました。

専攻して驚いたのは、学生は私一人だけということでした。4回生はゼロ。私が4回生になったときには3回生の新入がなかった。かの4回生が執拗に勧誘した理由が分かるというものです。

ここで私は、勉強するということを初めて知りました。演習に講読が二つ、特講の中国語に加えて、課外の輪読会として中田勇治郎先生が王羲之の法帖を読んでくださった。読本の読み手はすべて私一人ですから、これはもう、とんでもないことでした。3回生と4回生の2年間は、昼食をとった記憶がありません。ひたすら辞書を牽いていました。携帯用の辞書は半年でボロボロ、4冊は取り替えたように記憶します。

▶その後、学問研究のうえで特に心がけたということがありますか。

博士課程の時でした。三木先生の推薦で、立命館大学で行なわれていた『詩品』の研究会に出席できる機会を得ました。高木正一先生が主宰で、後に小説家に転じた高橋和巳が助教授でした。ただこの会は実質的には吉川幸次郎先生が仕切っておられ、やがて日本中国文学会の中核をなす人たちが、吉川先生の厳しい詰問に窮して、ことごとく赤面して下を向き、歯を食い縛っていた風景が今も目に焼きつ

ています。

この研究会を体験して、「読む」力を養うには学外で修業することが必要という思いを強く持ちました。とにかく私たちの学問では、読むことが一番の基礎であるわけです。

それで、次に京大人文研の平岡武夫先生の門を叩きました。『白氏文集』の研究です。花房英樹、福永光司先生などが常に発言されて、やはり恐ろしい会でした。この会には長く通いました。

研究を進めるなかで、中国の禅宗史を知る必要が生じました。ちょうど花園大学から京大人文研へ移籍された柳田聖山先生が初期の禅宗史書を読んでおられたので、これを幸いに入門しました。『景德伝灯録』、『禅林僧宝伝』を学びました。ここも長く通いました。

それから、神田喜一郎先生のご自宅をたびたび訪ねて教えを受けたことも、忘れられません。

▶最後に本学の学生に送ることをばをお聞かせください。

専門の学生に対しては、ただ「読む」こと。この一語につきます。

一般論とすれば、なにごとも一所懸命にするということでしょう。一所懸命にする者があれば、その十倍は一所懸命にする。そうすればおのずから人間性も磨かれて、きわだって光る。光れば、職おのずからその中にあると思います。

〔略歴〕

1938年 大阪府に生まれる。
1962年 大谷大学文学部文学科卒業
1968年 大谷大学大学院博士課程満期退学
1969年 大谷大学助手
1972年 大谷大学専任講師
1978年 大谷大学助教授
1984年 大谷大学教授
1986年 大谷大学学生部長
2004年 大谷大学退職
現在 大谷大学名誉教授

〔著書〕

『東西文学の世界』（共著）
『大谷高等学校柔道部五十五年史』
『平野五岳詩選訳注』

〔論文〕

「大谷大学所蔵『敦煌古写経』（続）釈文・解説」（分担執筆）
「『日本金石函録』釈文・訓読（分担執筆）並びに釈文余滴」
「『龍門造像題記』釈文・訓読・解題」（分担執筆）
「持誦金剛経靈驗功德記私攷」

「柳宗元の釈教碑について」

「劉禹錫の仏教受容」
「権徳輿と仏教」
「詩僧文暢に関する二三の問題」
「法照に関する二三の問題」
「漱上人文集序管窺」
「詩僧靈一について」
「詩僧皎然の仏教」
「平野五岳と西郷南洲」
「『三教指帰』偽撰説の提示」
「『三教指帰』本文の文章」
他論文 多数

河内昭圓先生へのコメント

徳高望重 桃李満天下 大谷大学教授（中国現代文学、中国語） 李 青

片手に茅台酒の杯を高く上げ、李白の詩を朗誦なさり、中国語も淀みなく話される河内先生のお姿が周囲を驚かせていた。これは1994年私が先生に随行し、中国の大学と学術調印を交わした後の一場面だった。先生のご尽力により、本学と中国研究機関との交流がここからスタートを切った。先生のユニークな「河内弁」と優しい人柄に惹かれ、協定校から先生に憧れ、遙々中国から留学生が先生の元に大勢やってきた。

先生は学者として立派な業績を有している。唐

の詩僧皎然研究で内外に名を馳せている。また教育者としても常に厳格な一面を見せておられる。先生のお弟子さんは、桃李門に満つと言っても過言ではない。しかし、先生から大目玉を食わされたり、雷が頭上に落ちたことのない弟子はいなかった。先生の叱咤激励はいずれも弟子たちの学問に励む源になり、先生の元から実に立派な若手研究者が輩出されていった。いつまでも河内弁で雷を落としながら、我々を励まして欲しい。



り せい
1993年3月 立命館大学大学院博士後期課程単位取得退学
1993年4月 大谷大学講師
1999年4月 大谷大学助教授
2011年4月 大谷大学教授

支部だより

岩手支部より 逆縁を通じての多くの出遇い

昨年の3月11日、私は京都で地震の発生と大津波警報の発令を知りました。何度か家人に連絡を試み、一度だけ電話が通じました。「防潮堤を大きく超えて海が溢れている。子供を連れ、学校から山伝いに家に戻る途中だ」との声を聞いた後、電話は切れました。直後から報道等で映し出された、見馴れた故郷の街並みが波に吞まれてゆく姿は、本当に悪夢としか思えないものでした。2日後に再び電話が通じ、家族の無事と、所属寺が避難所になったことを知りました。ようやく郷里に戻ったのは4日後の3月15日。大学には半年間の休職をお許しいただきました。



津波直後の自宅付近の状況

最初の一か月ほどは、降雪と余震が続き、電気も水も情報も途絶えた中で、近隣の片付けや遺体安置所でのお参り等を皆で続けました。あ

の時に感じた、人間の力の小ささ、いのちの「有ること難さ」、そして、いのちとは決して生きている私たちだけのものではない、という実感は、今も私の心に深く刻まれています。

4月中旬頃からは、大谷大学の皆様、同窓会会員の皆様をはじめとする全国の方々から沢山の温かい御支援が届けられるようになり、多くのボランティアの方々も来訪されるようになりました。腰が重く、何もできないことを思い知らされるばかりの毎日でしたが、そのような時、皆が近くにいることや多く



ジャンベの演奏に訪れて下さった同窓生の山下正樹氏ご一行と

の方が寄せて下さったお心、お出で下さった方々の「私たちも出遇いに感謝しています」というお言葉等々は、本当に大きな導きであり、支えでした。

被災地では今もなお深刻な状態が続いています。皆様のお支えに心より感謝申し上げますと共に、今後とも御支援の程よろしくお願い申し上げます。

大谷大学准教授 東館 紹見
(岩手県宮古市出身)

佐賀支部より

小支部（現会員40名）に原稿の依頼があって報告するのが恐縮です。夏季八十講が始まって以来、公開講座があり、出席率が高いのは、何故かと言うことでしょうか！佐賀支部は、地道な活動です。しかし、目標があります。この地域は、大谷大学より、龍谷大学の方が知られています。どうか、伝統ある我母校を知って欲しい、願わくば、大谷大学で学んで欲しいの一心です。会員は、少しでも多くということで、中途退学の方、本学卒業生の保護者にも、会員として出席してもらっています。支部同窓会は、三部に分けて開催しています。

1、公開講演

○現在は、寺院外の在生者と同窓生が大半を占めるようになりました。したがって、場所は寺院を使わないようにしています。



仏教公開セミナー(2009年度)

○各種団体にチラシを配布しています。講師の演題によって、例えば、教育に関することであれば、教育委員会にも協力依頼をしています。

2、支部総会

講師の先生から大学の現況報告を聞き、母校の将来について話し合います（活発な意見が出ます）。

3、楽しい懇親会

以上、地道にコツコツと光ある活動をしています。

同窓会理事・佐賀支部長 奥村 豊

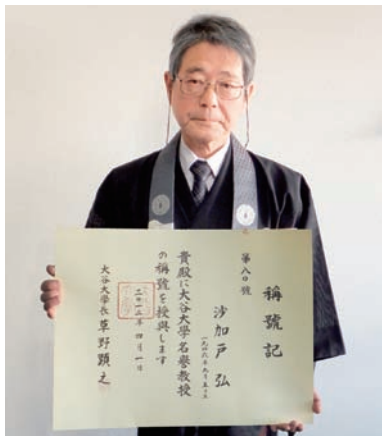
母 校 だより

グランドデザイン発表される

2011年10月13日の開学記念日に、10年後の本学のあるべき姿をグランドデザインとして策定し、学の内外に発表いたしました。

詳細については29ページをご覧ください。

名誉教授の称号贈られる



沙加戸弘先生



並木治先生

このたび、大谷大学名誉教授称号授与規程に基づき、本学の教育上、また学術上、特に功績のあった先生に贈られる名誉教授の称号が沙加戸弘先生（国文学）、並木治先生（フランス文学）に贈られました。授与式は2012年4月1日に学長室において行われました。

課程博士の学位を授与

2012年3月16日の学位記授与式において、博士後期課程修了者5名に博士（文学）の学位を授与しました。学位取得者は、松下俊英（仏教学）、竹中正太郎（哲学）、大畑博嗣（仏教文化）、工藤克洋（仏教文化）、寺岡茂樹（国際文化）の各氏です。



(左より)竹中正太郎氏、松下俊英氏



(左より)大畑博嗣氏、工藤克洋氏、寺岡茂樹氏

鷺田清一教授が読売文学賞を受賞される



鷺田清一教授

本学哲学科の鷺田清一教授が第63回読売文学賞を受賞されました。

今回は鷺田教授を含めて5名の方が受賞され、鷺田教授は著書『「ぐずぐず」の理由』で評論・伝記賞を受賞されました。

授賞式は2012年2月24日に行なわれました。

鷺田教授のご著書は大変多く、これまでに桑原武夫文芸賞やサントリ一文芸賞を受賞されています。

久多の木造五輪塔

近年、京都市左京区久多の志古淵神社で木造五輪塔の存在が確認され、大谷大学博物館へ寄託となりました。そして、調査の結果、たいへん貴重な五輪塔の遺品であることが判明しました。

五輪塔は、総高約30cmで、ヒノキと思われる針葉樹の芯部で制作され、五輪（空輪・風輪・火輪・水輪・地輪）に方形の基壇を伴うものです。また、保存状態のたいへんよいものです。

五輪の四面にはそれぞれ五輪をあらわす梵字が書かれ、基壇四面にも墨書がありました。もっとも注目されるのは「己卯歳/平治元

年/十二月九日…」の墨書で、年紀を信じれば、12世紀中頃の制作で、現存最古の木造五輪塔となります。また日付が平治の乱勃発の日と一致するのも興味深いものと思われま

す。さらにX線とCT調査により空輪・地輪・基壇に納入品があることが判明しました。地輪と基壇は側面から柄穴をうがって納入され、納入品は渦巻き状ないしは折り畳んだ状態とみられ、仏典や関係者の名簿などが書かれた紙か布と思われま

す。空輪は上部から穴をうがって納入されています。内側には袋状の三層の皮膜がみえ、一部織目がみえるので布ではないかと思われま

す。たいへんていねいな作りになっています。底には約2.5mmの球状のものが認められ、仏舎利の代用としての玉ないし水晶ではないかと考えられます。

12世紀中頃は五輪塔の成立期ともみられ、その成立を考える上でも重要な遺品となり、今後の研究が俟たれます。



木造五輪塔

伝道部の活動について



宗祖七百五十回御遠忌法要参拝
真宗本廟での集合写真

卒業生の皆様こんにちは！「大谷大学伝道部」です。伝道部は仏教や真宗に興味をもっている学生の集まりです。「伝道部」ときくと固苦しいクラブを想像するかもしれませんがそうではありません。私達が日頃感じる素朴な疑問を出し合い、お互いにその問いを真宗や仏教を通し、身をもって考えていこうとするクラブです。

現在の活動内容では大学や本山で行なわれる行事に参加し、いろいろな講演を聞いたりしています。各教区や有縁寺院での子ども会に参加したり、報恩講などにお参りしています。年末には尋源館を会場に講師を招いて伝道部報恩講を勤めます。その他にも部内有志で定期的に輪読会や聲明練習などもしています。

昨年の宗祖七百五十回御遠忌では本山阿弥陀堂素屋根に展示ブースを設けさせていただき、記念作品（等身大の親鸞聖人像・書道・活動ポスター等）を展示しました。

12月には御遠忌を記念して、報

恩講発祥地であり親鸞聖人旧廟所である「元大谷 崇泰院」（京都市東山区）を会場に「宗祖七百五十回御遠忌 伝道部報恩講」を執り行いました。10月から勤行練習を始め、餅つき・接待・お磨き・当日の運営に至るまですべて部員で行い、手作りの報恩講となりました。

部員の減少や諸処の理由で活動が難しい事もありますが、自分たちの出来る範囲で活動させていただきたく思っています。

生活の中での様々なことを「有縁の法」として捉え、仏法を頭ではなく体全体で「聞く」ことができる。偉い人でなく尊い人となる…そんな部を目ざして日々模索中です。

2010年・2011年度部長 廣瀬 啓

課外活動の成績等について

大谷大学のホームページに掲載されていますのでご覧ください。
<http://www.otani.ac.jp/clubs/>

人 事

(2011年8月1日～
2012年9月20日)

部局長の交代

[学監・副学長]

水島 見一

(前学監・文学部長 門脇 健)

[文学部長]

ローズ ロバートF.

(前学監・文学部長 門脇 健)

[大学院文学研究科長]

高井 康弘

(前大学院文学研究科長 織田 顕祐)

[短期大学部長]

山野 俊郎

(前短期大学部長 徳岡 博巳)

[真宗総合学術センター長]

浅見直一郎

(前真宗総合学術センター長 藤嶽 明信)

[入学センター長]

村山 保史

(前入学センター長 松川 節)

2012年4月1日付 (各通)

館長などの交代

[図書館長]

加藤 丈雄

(前図書館長 村瀬 順子)

[博物館長]

齋藤 望 (再任)

[真宗総合研究所長]

浅見直一郎

(前真宗総合研究所長 藤嶽 明信)

[人権センター長]

谷 眞理 (再任)

[博物館主事]

平野 寿則 (再任)

[総合研究室主任]

渡辺 啓真

(前総合研究室主任 並木 治)

2012年4月1日付 (各通)

[幼稚園長]

佐賀枝夏文

(前幼稚園長 藤田 昭彦)

2012年5月25日付

退職

* 定年退職

[教育職員]

池田 佳和 (教授・文学部)

沙加戸 弘 (教授・文学部)

寺林 脩 (教授・文学部)

並木 治 (教授・文学部)

[事務職員]

稲垣 淳造 (教育研究支援部)

2012年3月31日付 (各通)

* 契約期間満了による退職

[教育職員]

西川 知亨 (任期制講師・文学部)

青木 三陽 (任期制助教)

大角 紘一 (任期制助教)

太田 蒔子 (任期制助教)

後藤 智道 (任期制助教)

長谷川琢哉 (任期制助教)

福島 重 (任期制助教)

藤原 智 (任期制助教)

右田 裕規 (任期制助教)

[事務系嘱託]

今西 達也 (企画・入試部)

川田 千尋 (総務部)

静永奈央子 (学生支援部)

西川 裕子 (学生支援部)

羽賀麻衣子 (企画・入試部)

別所めぐみ (教育研究支援部)

[寮務系嘱託]

上杵 和子 (自灯学寮)

[寮監]

谷口 愛沙 (自灯学寮)

光川 眞翔 (貫練学寮)

[校医]

市来 和政

[就職アドバイザー]

佐藤 恵

2012年3月31日付 (各通)

* 依願退職

[教育職員]

ヴェステル デイディエ (教授・文学部)

岡部真由美 (任期制助教)

2012年3月31日付 (各通)

[事務職員]

窪田 純 (企画・入試部)

2012年5月31日付

[事務系嘱託]

伊藤 景子 (教育研究支援部)

2011年8月31日付

弓削 絵理 (企画・入試部)

2011年9月30日付

前田 幸子 (企画・入試部)

2011年12月31日付

井上 舞 (教育研究支援部)

2012年8月31日付

* 死亡退職

藤田 昭彦 (特別任用教授・短期大学部)

2012年4月10日付

佐藤 義寛 (教授・文学部)

2012年6月11日付

新規採用

[教育職員]

鷲田 清一 (教授・文学部)

2011年9月1日付

下道 省三 (教授・短期大学部)

武田 和哉 (准教授・文学部)

野中 亮 (准教授・文学部)

藤田 義孝 (准教授・文学部)

藤原 正寿 (准教授・短期大学部)

中川 眞二 (講師・文学部)

池田 佳和 (特別任用教授・文学部)

赤枝香奈子 (任期制講師・文学部)

今西 智久 (任期制助教)

河崎 豊 (任期制助教)

黒澤 祐介 (任期制助教)

佐々木秀英 (任期制助教)

鈴木 達明 (任期制助教)

相馬 晃 (任期制助教)

宋 基燦 (任期制助教)

竹中正太郎 (任期制助教)

廣田 大地 (任期制助教)

[事務職員]

小原 紗貴 (教育研究支援部)

後藤 秋華 (総務部)

後藤 智道 (企画・入試部)

大江由佳理 (学生支援部)

谷本 雅亮 (総務部)

2012年4月1日付 (各通)

[事務系嘱託]

本多美沙子 (企画・入試部)

2011年9月1日付

井上 朋子 (学生支援部)

井上 舞 (教育研究支援部)

小熊 健一 (教育研究支援部)

河野麻友美 (企画・入試部)

川原崎ふみ (学生支援部)

坂根利佳子 (総務部)

野邑 理香 (総務部)

宮川真紀子 (学生支援部)

山村 依利 (企画・入試部)

横田 絢子 (総務部)

2012年4月1日付 (各通)

加藤 里亜 (企画・入試部)

2012年9月1日付

[寮監]

中山 量純 (貫練学寮)

村田 知子 (自灯学寮)

[校医]

山内 正美

2012年4月1日付 (各通)

昇格

[教授]

山本 和彦 (文学部)

山本 貴子 (文学部)

[准教授]

市川 郁子 (文学部)

三宅伸一郎 (文学部)

2012年4月1日付 (各通)

堅田修名誉教授を偲んで



名誉教授堅田修先生は2011年9月15日に逝去された。享年85歳であった。

先生は1925年11月愛知県のお生まれで、大谷大学予科・文学部・研究科と進まれた。その間、勤労働員、出征、2年間のシベリア抑留を経験されている。

大谷高校の教諭生活をへて、1955年文学部助手、1961年講師、次いで助教授、教授とすすまれ、1991年3月の定年退職まで約35年間にわたって教鞭をとられた。また、大学院研究科長等の要職を歴任されて大学運営にも貢献されている。

先生のご研究は、日本古代寺院の研究、日本古代信仰の研究、真宗史の研究という三つのご関心からなり、その成果は、学位論文『日本古代信仰と仏教』はじめ、『日本古代寺院史の研究』『真宗史考叢』などとして公刊され、学界に裨益するところが大きい。また、財団法人古代学協会に設立当初から参画、活躍されてもきた。

学生指導では、学生の多様な関心を

尊重し、その都度、懇切に助言、指導なさっていた。座学以外のフィールドワークの重要性も強調され、国史学会研究旅行やゼミ史跡踏査など機会あるごとに学生を引率されていた。先生の健脚ぶりは目をみはるものがあり、急峻な山道、遠路をスーツ姿で苦もなく歩まれていたことが思い出される。

ゼミコンパや一夜研などにも気軽に参加されたが、酒量が進むと、出征中の話やシベリア抑留時代に覚えられたロシア語の歌を披露されることもあった。

最後に、公私ともどもに賜った御恩に、心より感謝申し上げ、謹んで哀悼の意を表する次第である。

大谷大学教授 宮崎 健司

平野顕照名誉教授を偲んで



本学名誉教授である平野顕照先生が2012年1月5日83歳でご逝去された。

先生は1928年7月7日に滋賀県にお生まれになり、1955年に大谷大学研究科を修了なされたのち、同年4月より本学助手に着任なされ、以降1994年3月に退職されるまでの40年近くにわ

たって本学で教鞭を執られた。

先生のご研究は、中国文学一主に唐代の文学と仏教の関わりについてであった。特に白居易や李白の詩文における仏教の影響について数多くの論考を発表され、この分野では先駆者ともいべき研究者であられた。1978年にはそれらの成果を『唐代文學と佛教の研究』という一書にまとめられてもおられる。

また文学科中国文学コースの主任として、さらには中國文學會の会長として、長い間会員の教員及び学生らを教導してこられた。特に1973年には國文學會と協力して文藝學會を結成し、毎年7月7日前後には公開講演会を開催し、機関誌『文藝論叢』を立ち上げる

などしてこられた。あわせて今日まで続く、学年・ゼミに捉われずに学生一人ひとりを所属教員全員で指導し、卒業論文中間発表会なども全学年合同で行なうという指導体制をも確立されたのである。

近年は少しく体調を崩されており対外的にはあまり活動をなされていなかったが、本年正月賀状と前後して訃報が伝えられたのである。長年にわたる先生のご指導とご学恩に深謝するとともに謹んで哀悼の意を表する次第である。

大谷大学教授 佐藤 義寛

廣瀬杲名誉教授を偲んで



廣瀬杲先生は2011年12月30日（金）にご逝去された。法名は「聞光院釈淨杲」、87年の御生涯であった。

1924（大正13）年にお生まれの先生は、昭和の波の中を生きられた。大谷大学に入学されて間もなく勤労働員、そして学徒出陣で軍隊に。終戦後は4

年の間、シベリア抑留となる。帰国の後、大谷大学に復学し、1953（昭和28）年に真宗学科を卒業された。その後、大学院を修了すると同時に講師となり、1961（昭和36）年に助教授、1965（昭和40）年からは教授を務められた。

一方、1968（昭和43）年からは、私塾である聞光学舎を開かれ、13年にわたって『観経疏』を講じられた。学園闘争の中で、1970（昭和45）年に大谷大学を辞められ、聞光学舎では『教行信証』の講義も始められた。

1975（昭和50）年に大谷大学教授に復職し、1980（昭和55）年からは6年間にわたり学長職をお務めになった。その間のお仕事と学恩に対しては、ど

れだけ言葉を費やしても尽くすことはできない。

先生は『宿業と大悲』以来、一貫して宿業存在としての人間を問うてこられた。それは如来に大悲される人間の在り方を見つめ続けることでもあった。親鸞の教学を「悲の教学」と押えられた事も、また人間成就という視点から「獲信」を「獲人」と語られたのも、その線上にある。

早く答えを求めようとする私にとって、先生の問いかけは切り返す刀のように感じられた。先生は浄土に還帰なされた。しかし先生の眼差しと言葉は今もはたらき続けている。

大谷大学教授 一楽 真

箕浦恵了名誉教授を偲んで



哲学科に入り、はじめて哲学者と呼ばれるひとが教室に入ってくるのを待ったときの高揚感をよく覚えている。そのとき1号館の大教室に入ってこられたのが箕浦先生であった。

授業では、しばしば「実存的真理」という表現が使われた。「自己の根源

として見出すことによって、ひとが安んじて生き、安んじて死ぬことのできる真理」を意味するそれを、先生はソクラテスの生と死に結びつけて考察された。先生にとって、ソクラテスはそのような真理を生涯をかけて問い続けたひとであった。

自己とかかわるこうした実存的真理は、若きキルケゴールが書いた「ゲーレライエの手記」での言葉にちなんでいる。キルケゴールの実存概念はその後、大谷大学大学院における古代哲学研究をへて先生が留学の地として選ばれたドイツの哲学者、ヤスパースによって実存哲学の主要概念として捉え直されたものであった。そしてそれは同時に、真宗寺院に生まれた先生に

としては、明治期の学僧、清沢満之が「此私をして、虚心平氣に、此世界に生死することを得せしむる能力の根本本体」として語ったものにまで連なる宗教哲学的な表現でもあったのだろう。

病床を見舞ったとき、先生は私たちの近況を尋ね、ひとりひとりの体調を気づかいながらおっしゃった。「体も心も思い通りになりません。しかし生かされている。他力ということが、この歳になってはじめてわかりました」。その数日後、2011年12月16日に箕浦恵了先生は逝去された。76年のご生涯であった。

大谷大学准教授 村山 保史

喜多川恒男先生を偲んで



喜多川先生が逝去された。享年81歳。2月19日は暦の上で「雨水」という。立春を過ぎ仲春の雨が桃の蕾をぬらして開花を促す。そういう日のご命日となるのは先生のお人柄になんともふさわしい。生粋の京都人であった先生はまず風流を解する人、美酒美食を愛す

る人、遊びが上手で、いつも周りの者をほのぼのと潤すところがあった。

先生は大谷大学の文学科国文学分野において近現代文学を担当されたが、その大らかさにひかれて集まる多くの学生を温かく指導された。器用に幅広くなんでもこなされたので、ご専門をしばらく切れないが、最後に書かれたのは、三好達治の詩をめぐる論考であった。「春の岬の鷗鳥」とはほんとうに先生の人生そのものだという気がする。先生の魅力は教室の外にもあった。かつての昆虫少年は、花が咲き蝶が舞い始めると「春の女神」(岐阜蝶)を語って飽きなかった。

先生の知遇を得て半世紀に及ぶが、同僚に加えていただいたころの国文学

研究室は渡辺貞磨先生、片岡了先生と喜多川先生が並び立ち、賑やかで華やかな雰囲気満ちていた。

先生に最後にお会いしたのも楽しい祝賀の席だった。みごとな白髪になられてみんなが「小林秀雄みたい」と囁いたほど健康そうであられたのに。明るい笑顔での歓談がお別れだったのは私にいただいた幸せである。

先生、そちらのお酒は如何ですか。ご冥福をお祈り申し上げます。

元大谷大学教授 荒井 とみよ

櫻部建先生の学恩を偲んで



櫻部建先生が2012年6月9日に逝去されました。享年88歳のご生涯でした。葬儀は愛知県のご自坊正覚寺で6月14日午前11時より営まれ、ご家族を初め多くの門信徒や有縁の方々に見送られて浄土往生の素懐を遂げられました。わたしたち門下生が先生に親しくご

指導いただくようになったのは、今から32年ほど前に俱舎論の輪読会を始めていただいて以来のことです。先生は大谷大学を退職されてからも、輪読会には「私の楽しみですから」と言われて、吉良吉田から京都まで毎週お出かけ下さり、白内障で文字が見えにくくなられるまで指導を続けて下さいました。輪読会は現在、チベットで最近発見されその解説を委嘱されたサンスクリット写本の研究会へと姿を変え、研究活動が継続されています。

先生の俱舎論、原始経典、大乘経典、宗学にまで及ぶ該博な学識を慕う者はわたくしたち門下生や国内の研究者だけではありません。欧米の研究者たちからも絶大な信頼を受けておられまし

た。本願寺から無量寿經の英訳を依頼されたミシガン大学のゴメズ教授もそのお一人です。教授は難解な経文に遭遇する度に櫻部先生の助言を仰がれたと聞いています。

わたしはいま真に碩学と呼び得る学者がおられなくなったことを痛切に感じます。しかし考えてみますと、わたしたちが先生のような優れた研究者のご指導をいただけたのは誠に希有な事でした。先生の長年のご指導に衷心よりお礼を申し上げます。先生、本当に有り難うございました。合掌

大谷大学名誉教授 小谷 信千代

米本義孝先生を偲んで



米本義孝先生は、2011年9月4日(日)に70歳でご逝去されました。

先生は1990年4月に大谷大学文学部教授として赴任され、2005年3月まで、15年間に亘って、英文学分野の学生たちの指導に尽力されました。その後、安田女子大学に移られ、2011年3月に

定年退職され、京都のご自宅に戻られたばかりでした。

先生は、主としてT.S.エリオットを初めとする20世紀イギリスの詩人や小説家ジェイムズ・ジョイスの研究を専門とされていました。難解で知られるジョイスの『ユリシーズ』の注釈に取り組み、毎日、夜遅くまで、個人研究室で研究に没頭されていたのを覚えています。

先生はとても個性的で冗談が大好きで、学生たちに「やる気」を起こさせるのが上手でした。先生のゼミを拝見したことがあります、学生たちは先生が何もされなくても自分たちで発表し、活発に質疑応答していました。彼らは就職活動にも意欲的で、先生のゼ

ミの就職率は非常に高かったと聞いています。

先生が大好きだったのは、お蕎麦(そば打ちもお得意でした)とケーキ、そしてビートルズでした。ビートルズをテーマに生涯学習講座を担当された時は大盛況だったそうです。先生はビートルズの歌詞を詩として学問的に研究されていました。それを本にまとめて出版することを定年後の目標とされていたようですが、それが叶わないうちに急逝され、さぞかし無念であったに違いありません。ここに謹んで哀悼の意を表したいと思います。

大谷大学教授 村瀬 順子

佐藤義寛教授を偲んで



2012年6月11日、本学教授佐藤義寛先生は53歳の若さで溘然としてご逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。

佐藤先生は1958年に北海道にお生まれになり、1989年本学の文学研究科を満期退学されてから、特別研修員、西

山短期大学講師を経て、1994年から本学の専任教員として18年間研究と教育に貢献されてこられました。

先生のご研究は中国の図像学と仙人伝研究でした。とりわけ心血を注ぎ尽くし、完成された『三教指帰』の注釈書『三教指帰註集』は、まさに先生のご研究の最高峰と言えましょう。近年は『列仙全伝』を中心に、仙人の系譜や吉祥物・吉祥図案について研究を進めておられました。

先生の「愛の鞭」もまた教員や学生の間で語り草になっています。授業は丁寧で、また手加減されない厳しいものでした。4回生の卒論の副査を先生にお願いした時、できの悪い学生の論文をいきなり屑箱に放り込みました。

これはもう不合格だなど思いましたが、その日から、佐藤先生は学生の手を取りながら、毎日卒論の指導を施し、締め切り日までに納得のいく論文を仕上げさせました。こうして先生に仕込まれ、学問を身につけ、立派に巣立っていった幸福な卒業生は少なくありません。晩年にはご体調が芳しくないにもかかわらず、文藝学会の会長の重任を引き受けて下さいました。長年に渡る先生のご高恩に感謝しつつ、ご冥福をお祈り申し上げます。どうぞ北海道の大地でごゆっくりお眠りください。

大谷大学教授 李 青

藤田昭彦先生を偲んで



2012年4月10日、藤田昭彦先生が、ご逝去されました。かねてよりご体調のすぐれないことは存じ上げていましたが、それほど芳しくなかったとは思いません。悲報に驚き、悲しみにくれるばかりでした。

先生は、大阪市立大学で心理学を修

められたのち、幼児教育科で教鞭をとられ、ほぼ40年の長きに渡り学生の指導にあたってこられました。その間、短期大学部長を2度務められたほか、長年大谷幼稚園長を兼任され、さらには京都府私立幼稚園連盟の理事、副理事長等を歴任されるなど、多方面にわたり八面六臂のご活躍でした。

初めて学科主任を務めたおり、とまどうことも多く先生に何度か相談したことがあります。思うようにやってみるといい、といわれるのが常でしたが、時には、肝心な点に限ってアドバイスをいただいたこともあります。自主性を重んじながらも、要諦は押さえるというお考えで、数多くの学生がお慕いしていました。

先生とは、研究室が隣同士で、お会いする機会も比較的多くありました。いつも穏和で、終始にこやかに対応していただくのをいいことに、つい長話となりご迷惑をおかけしたことを思い出します。

ご専門のことは門外漢でわかりませんが、心理学の知見や園長としての経験に裏付けられた、幼児教育の深い見識の一端に触れることができ、今後の教育を考える上で、大きな支えを得ました。そういう意味でも、今後も先生とともに歩み続けられることに感謝いたします。

大谷大学短期大学部教授 藤本 芳則

2012(平成24)年度 大谷大学博物館のご案内

●特別展 宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌記念「親鸞 一真宗開顕一」

会 期 2012年10月10日(水)～11月28日(水)

休 館 日 日曜日・月曜日

※11月3日(土・祝)・23日(金・祝)・25日(日)・26日(月)は開館

開館時間 10:00～17:00(入館は16:30まで)

※金曜日のみ10:00～19:00(入館は18:30まで)

●冬季企画展 京都を学ぶ「打敷の意匠 一町衆のこだわり一」

会 期 2012年12月11日(火)～2013年2月16日(土)

休 館 日 日曜日・月曜日、12月27日(木)～1月5日(土)、1月19日(土)

開館時間 10:00～17:00(入館は16:30まで)

大谷大学博物館 〒603-8143 京都市北区小山上総町 TEL075-411-8483

http://www.otani.ac.jp/kyo_kikan/museum/

ミュージアムグッズ販売中

博物館が所蔵している貴重な資料をデザインした各種グッズを販売しています。各種行事等にご利用ください。地方発送等も承ります(送料別)。金額は全て税込です。

お問い合わせ・お申し込みは同博物館(075-411-8483)まで。



◆「トートバッグ」

40センチ×30センチ×8センチ
(中国古印をデザイン)

1個 1,500円



◆「ミニタオルハンカチ」

1枚 400円
(2枚以上お買い上げで
2枚目から350円)

◆「プレゼント用ケース」

1個 50円



◆「ミニ便箋」

赤・青 各色
(貝葉資料を包装していた更紗よりデザイン)

1冊 350円



◆「オリジナル手ぬぐい」

(中国古印をモチーフに
デザイン)

1枚 850円

2012年度後期 大谷大学生涯学習講座のご案内

大谷大学では、本学の知的資産を基盤とした生涯学習講座を開講しています。本学ならではの宗教・信仰を求めていく講座、現代社会をいかに生きるのかをテーマとする講座、京都の文化の奥深さを知る講座など、切り口は多様ですが、共通するテーマは「人間」です。大谷大学の生涯学習講座にご期待ください。

開放セミナーのご案内

1	テーマ	シリーズ世界の仏教②チベット〈協賛:NPO法人「尋源舎」〉
	講師	福田 洋一(大谷大学教授)
	開講日	2012年10月17日・10月31日・11月14日・12月5日・12月19日・2013年1月9日
	時間	18:00～19:30
	定員	100名(先着順)
	会場	響流館3F メディアホール
	受講料	6,000円(税込)
申込締切	10月3日(水)当日消印有効(申込多数の場合、申込締切日以前であっても受付を終了することがあります)	

2	テーマ	『平家物語』の人々 ―清盛・維盛の生と死―
	講師	池田 敬子(大谷大学教授)
	開講日	2013年1月11日・1月25日・2月15日・2月22日・3月8日
	時間	18:00～19:30
	定員	100名(先着順)
	会場	響流館3F メディアホール
	受講料	5,000円(税込)
申込締切	12月21日(金)当日消印有効(申込多数の場合、申込締切日以前であっても受付を終了することがあります)	

3	テーマ	近世語り物の源流 ―浄瑠璃御前の恋に酔う―
	講師	沙加戸 弘(大谷大学名誉教授)
	開講日	2012年10月11日・10月18日・10月25日・11月8日・11月15日・11月22日
	時間	18:00～19:30
	定員	100名(先着順)
	会場	響流館3F メディアホール
	受講料	6,000円(税込)
申込締切	10月4日(木)当日消印有効(申込多数の場合、申込締切日以前であっても受付を終了することがあります)	

紫明講座のご案内

1	テーマ	災害とボランティア
	講師	志藤 修史(大谷大学准教授)
	開講日	2012年10月1日・10月15日・10月29日
	時間	18:00～19:30
	定員	100名(先着順)
	会場	響流館3F メディアホール
	受講料	3,000円(税込)
申込締切	9月24日(月)当日消印有効(申込多数の場合、申込締切日以前であっても受付を終了することがあります)	

2	テーマ	『古事記』を読む ―大国主神の物語―
	講師	生田 敦司(大谷大学非常勤講師)
	開講日	2012年10月16日・10月30日・11月13日・11月27日
	時間	18:00～19:30
	定員	100名(先着順)
	会場	響流館3F メディアホール
	受講料	4,000円(税込)
申込締切	10月9日(火)当日消印有効(申込多数の場合、申込締切日以前であっても受付を終了することがあります)	

3	テーマ	コンテンツ産業の現在
	講師	柴田 みゆき(大谷大学准教授) 宮河 恭夫 氏(株式会社サンライズ専務取締役)
	開講日	2013年2月9日・2月16日・2月23日
	時間	14:00～15:30
	定員	100名(先着順)
	会場	響流館3F メディアホール
	受講料	3,000円(税込)
申込締切	2月1日(金)当日消印有効(申込多数の場合、申込締切日以前であっても受付を終了することがあります)	

4	テーマ	カフェで哲学③ ―宗教に回帰する現代人―
	講師	狭間 芳樹(大谷大学非常勤講師/京都大学研修員)
	開講日	2012年11月17日・12月1日・12月8日
	時間	14:00～15:30
	定員	35名(応募者多数の場合は抽選)
	会場	響流館3F マルチメディア演習室
	受講料	3,000円(税込)
申込締切	10月26日(金)当日消印有効	

【申し込み方法】

講座案内パンフレットのご請求は、①氏名・フリガナ、②郵便番号・住所、③電話番号、④パンフレット希望、と明記の上、ハガキ、FAX、E-mailのいずれかにて下記までお知らせください。また講座をお申し込みの場合は、①氏名・フリガナ、②郵便番号・住所、③電話番号、④講座名、を明記の上、下記までお知らせください。

【申し込み/問い合わせ先】

〒603-8143 京都市北区小山上総町 大谷大学教育研究支援課 MU係

TEL: 075-411-8161 (直通) FAX: 075-411-8162 E-mail: o_semi@sec.otani.ac.jp

同期会、ゼミ・クラス会、 OB・OG会

恩師を 囲んで



2011年卒業 安井ゼミ同期会 (2011.8.20)
久しぶりにゼミのメンバーに会い、仕事の話しや将来の話をしました。また、ぜひぜひ集まりたいですね!!



2011年度大谷大学剣道部講武会総会 (2011.8.20)
毎年恒例の剣道部講武会の総会を開催しました。尋源講堂で物故者追弔の勤行の後、道場でOB対現役の試合および合同稽古を行いました。



1984年卒業 東洋史 藤島建樹先生ゼミ同窓会 (2011.8.27)
卒業から30年近く経っても、恩師藤島建樹先生を囲んで集えば、ゼミで中国に旅行した日々に戻ったような楽しい夕べでした。



2009年卒業 加来ゼミ同期会 (2011.8.27 ~ 28)
湖西キャンパスで1泊2日の研修会。2年ぶりの再会に歓喜し、恩師を交え自身の課題や悩みを語り明かした同期会だった。



2004 ~ 2006年度 安富ゼミ博士 在籍者同窓会 (2011.8.27 ~ 28)
先生のご自坊のある村上市を会所に7名が集いました。ご法話での「随所作主」の言葉が深く心に残っています。



下鴨学寮43期生の会 (2011.8.29)
春近寮監さんを囲み、ブライトンホテルで開催しました。還暦を迎えてからの再会を喜び毎年開催することを決めました。次回は九州。



1995年入学 知真学寮同窓会 in熊本 (2011.9.2)
佐賀枝先生をお招きして「1995年入学知真学寮同窓会in熊本」を開催しました。当日は台風の影響もあり、九州のものしかあつまることができませんでした。久しぶりに佐賀枝先生や寮生と盛り上がりました。2016年は知真学寮卒業20周年の記念の年なので、お盆明けの8月19日(金)に京都で大規模な同窓会を行いたいと思いますので、みんな予定をあけておいてください!

同期会、ゼミ・クラス会、OB・OG会開催一覧

開催日時	会 合 名	開催日時	会 合 名	開催日時	会 合 名
2011. 8.20(土)	2011年卒業 安井ゼミ同期会	2012. 1. 8(日)	2011年卒業 脇中ゼミ同期会	2012. 5.12(土)	1987年卒業 短期大学部国文科Dクラス同期会
2011. 8.20(土)	2011年度大谷大学剣道部講武会総会	2012. 1.14(土)	尺八部・箏曲部OB・OG「菩提樹の会」 ～15(日)	2012. 5.26(土)	知真学寮 第6期生同窓会(佐々木 令信先生を偲ぶ会)
2011. 8.27(土)	1984年卒業 東洋史 藤島建樹先生 ゼミ同窓会	2012. 1.22(日)	2004年度卒業 幼児教育科Bクラス会	2012. 5.26(土)	第36回 浄眼洞(山田亮賢先生門下 生の会)一夜研修会
2011. 8.27(土)	2009年卒業 加来ゼミ同期会 ～28(日)	2012. 2.12(日)	2009年度 東館ゼミ 卒業生同窓会	2012. 6.11(月)	昭和34年入学フランス語 岩見教授 を囲む会
2011. 8.27(土)	2004～2006年度 安富ゼミ博士 ～28(日) 在籍者同窓会	2012. 2.16(木)	「昭和47年度 大谷大学洗心学寮入寮生 同窓会」寮委員の先輩をお迎えして	2012. 6.15(金)	2011年卒業 安井ゼミ同期会
2011. 8.29(月)	下鴨学寮43期生の会	2012. 2.18(土)	2012. 2.18(土) 並木先生 御退職記念懇談会	2012. 6.16(土)	第14期(1980年入寮) 自灯学寮 同期会
2011. 9. 2(金)	1995年入学 知真学寮同窓会in熊本	2012. 2.22(水)	1971年卒業 廣瀬ゼミ同期会	2012. 6.18(月)	昭和35年下鴨寮生 同期会
2011. 9. 3(土)	「自灯学寮1期生」の集い ～4(日)	2012. 2.22(水)	廣瀬果先生(開光院釈浄果)お別れの会	2012. 6.18(月)	大谷大学短期仏教科昭和46年卒業 ～19(火) 同窓会
2011. 9. 5(月)	大谷大学40会 ～6(火)	2012. 2.25(土)	史学科東洋史学分野 藤島ゼミ 1987-88年卒業生合同同期会	2012. 6.23(土)	草野顕之先生の還暦を祝う会
2011. 9.15(木)	第9回大谷大学育英学寮(昭和30年 4月入寮)同期会	2012. 3. 3(土)	大谷大学東館ゼミ2008年度卒業生 同窓会	2012. 7. 1(日)	大谷大学 昭和47年卒業 幼教クラス会 ～2(月)
2011. 9.23(金)	混声合唱団OB総会	2012. 3.10(土)	大谷大学卓球部創部80周年・卓球 部後援会創設35周年 記念祝賀会	2012. 7. 7(土)	第37回 大谷大学バスケットボール 部OB・OG会
2011. 9.29(木)	大谷大学専門部昭和21年度卒業 同期会	2012. 3.17(土)	1993～1995年卒業 哲学倫理学 ゼミ会	2012. 7. 8(日)	昭和50年3月卒業 文学部東洋史学科 同窓会
2011.10. 1(土)	大谷大学弓道部OB会 親鸞聖人 七百五十回御遠忌ならびに弓道部 物故者追弔法要	2012. 3.24(土)	寺林先生の定年退職を祝う会・ 2011年卒業 寺林ゼミ同窓会	2012. 7.15(日)	1996年卒業 名畑ゼミ同窓会並びに 名畑崇先生の傘寿を祝う会
2011.10. 1(土)	大谷大学国文学会	2012. 4. 9(月)	大谷大学33同期会 in関西 ～11(水)	2012. 7.21(土)	創立40周年記念 大谷大学飛行研究 会OB会
2011.10. 2(日)	道交会総会(柔道部OB・OG会)	2012. 4.19(木)	昭和45年育英学寮同期会	2012. 7.26(木)	2007年卒業 文学部 加来ゼミ同期会
2011.10. 8(土)	1984年卒業 福島ゼミ同期会	2012. 4.21(土)	寺林先生おつかれさま会(2005～ 06年卒業 寺林ゼミ生)	2012. 7.28(土)	1981年度入学 I-G同窓会
2011.10.25(火)	2011年卒業 采翠ゼミ同期会	2012. 4.28(土)	大谷大学史学科(S51年入学) フランス語I-Gクラス同窓会	2012. 7.28(土)	1982～1986年卒業 片岡ゼミ 同期会 ～29(日)
2011.11.13(日)	2002年3月卒業 大内文雄ゼミ同窓会	2012. 4.29(日)	2001年卒業 藤島建樹ゼミ 同窓会	2012. 8.14(火)	昭和60年卒業 渡辺ゼミ同窓会
2011.11.19(土)	谷雪会(スキー競技部OB会)	2012. 5. 8(火)	大谷大学育英学寮32会 in加賀 ～10(木)	2012. 8.18(土)	大谷大学体育会剣道部 講武会
2011.11.23(水)	自動二輪同好会 第10回記念OB会	2012. 5.12(土)	アメリカ民謡研究部(会) OB・OG会		
2011.11.26(土)	1979年(昭和54年)卒業 廣瀬果ゼミ ～27(日) 同期会				
2011.11.27(日)	大谷大学バレーボール部OB・OG会				
2011.11.27(日)	平成三年卒業 大谷大学 東洋史学同窓会				

開催をお世話いただく幹事さんへ

◆「同期会」「ゼミ・クラス会」「OB・OG会」等を開催される時は、事前にご連絡ください!

事務局は、大谷大学「尋源館」2階にあります

大谷大学同窓会本部事務局 (大谷大学総務部「校友センター」内)

<連絡先>TEL:075-411-8124 (直通)

FAX:075-411-8157 (直通)

E-mail:kouyu@sec.otani.ac.jp

※電話・FAX・メール等、ご都合の良い手段でご連絡ください。

◆まずは、開催1か月前までに「同期会届」「OB・OG会届」をご提出ください。

- ◇「同期会」としてお届けいただくためには、その団体の全対象者にご案内をされていることが前提となります。
- ◇クラブの「OB・OG会」は、すべての年度の卒業生を対象としてご案内ください。
- ◇「開催届」の提出と上記の内容を満たしている団体には、通信費の一部として「開催助成費」を補助しています。

◆同窓会本部事務局では、こんなお手伝いができます。

1. 申請により、連絡用名簿・宛名ラベルを提供することができます。

◇「同窓会本部への申請書 提出」より「名簿・宛名ラベルのお届け」までは、1週間～10日程度かかります。
(事務の都合上、それ以上かかる場合もございます。)

2. 大学の施設を、同期会の会場として利用できます。

◇授業・大学行事等の関係上、利用できない場合があります。
利用を希望される場合は、日程等を決定する前に、同窓会本部事務局へご相談ください。

3. ホームページ「無盡燈」に開催予定・報告を掲載します。

同窓会報『無盡燈』には、写真とともに開催結果を掲載します。

「ゼミ・クラス等同期会」「OB・OG会」についての詳細は、
同窓会本部事務局までお気軽にお問合せください。



『自灯学寮1期生』の集い (2011.9.3～4)
台風12号に見舞われ半数の参加者となりました。寮監寺川先生より近況の写真と差し入れを頂き、感謝をしながら学生時代の思い出に花が咲きました。



大谷大学40会 (2011.9.5～6)
今年第十回目の記念同窓会・宗祖七五〇回忌を迎え、新装となった本山参拝もかねて京都で開催致しました。



第9回大谷大学育英学寮 (昭和30年4月入寮) 同期会 (2011.9.15)
今年は、木屋町の幾松で開き、52年ぶりの友との再会があり、寮歌を肩を組みながら歌い更なる懇親を深め、次回を約束し散会する。



混声合唱団OB総会 (2011.9.23)
再来年の演奏会に予定している創立45周年OB合同ステージについて現役と話し合い、その後、「歌おうNIPPON」プロジェクト (震災に向けて) の曲を皆で歌いました。



大谷大学専門部昭和21年度卒業同期会 (2011.9.29)
最近をよく先の戦争体験を風化させてはならないと言われていたが、その時代を生きてきた同期会の面々、共通の話題に花咲いた。

大谷大学弓道部OB会 親鸞聖人七百五十回御遠忌ならびに弓道部物故者追弔法要 (2011.10.1)
本年のOB会は親鸞聖人750回忌を期して、御遠忌ならびに弓道部物故者追弔の法要を執り行い、草野顕之学長より講演を頂戴しました。



大谷大学国文学会 (2011.10.1)
国文学分野の卒業生・在学生が集い、本学教授・沙加戸弘先生の講演を聴講した。その後、懇親会を開き、旧交を温めた。



東欧8日間の旅 4月10日～17日
プラハ/オロモウツ/ワルシャワ/クラクフ

東欧の珠玉の世界遺産巡りです。

ミャンマー7日間の旅 8月31日～9月6日
ヤンゴン/バガン/マンダレー/インレー湖

仏教国ミャンマーのハイライト巡りです。

.....
詳細はお問い合わせください。

国土交通大臣登録旅行業第1516号

株式会社キャラバンツアー大阪支店 担当：柏井

〒550-0005 大阪市西区西本町1-2-19 千代田ビル5F

TEL:06-6532-2202 FAX:06-6532-2893



道交会総会（柔道部OB・OG会）（2011.10.2）
今年、講堂をお借りして物故者の追悼会をさせていただきました。続いての総会・懇親会も盛況に終わりました。



1984年卒業 福島ゼミ同期会（2011.10.8）
今年50歳を迎える年を記念して、同期会を開きました。卒業以来という人もいましたが、月日のブランクをものともせず学生時代に戻って楽しい一時をすごしました。



2011年卒業 采翠ゼミ同期会（2011.10.25）
卒業してまだ半年ですが、社会の風に吹かれて少しは成長したかな。また機会を見つけては集まりましょう！



2002年3月卒業 大内文雄ゼミ同窓会（2011.11.13）
去る11月13日に同窓会を開催しました。10年ぶりの再会に、大内先生を囲んで近況や学生時代の話に花を咲かせました。



谷雪会（スキー競技部OB会）（2011.11.19）
第37回を迎えた谷雪会でしたが、今回より大島会長をはじめとする新幹部となり、新たな出発となりました。



自動二輪同好会 第10回記念OB会（2011.11.23）
10回目の記念OB会を東本願寺近くのホテルで開催しました。そろそろ人生の折り返し地点ですね。これからも人のために生きていきましょう。（藤村・家本・田中）



1979年（昭和54年）卒業 廣瀬果ゼミ同期会（2011.11.26～27）
卒業以来33年、宗祖御遠忌御正當年という節目の年に当たり、御本山参拝後「割烹なにか川四条店」にて、和気藹々の中、懇親を深めました。恩師にお会いできず残念でした。



大谷大学バレーボール部OB・OG会（2011.11.27）
バレーボール部創設40周年、OB・OG会発足35周年を記念して、第35期OB・OG会を開催致しました。多くのご参加を頂き、大変有意義な時間を過ごす事ができました。



平成三年卒業 大谷大学 東洋史学同窓会 (2011.11.27)
6年ぶりの同窓会です。藤島先生、大内先生を囲み同じ時を過ごした仲間同士、話が尽きることがありませんでした。次回は2～3年後を目処に開催したいと思います。



2011年卒業 脇中ゼミ同期会 (2012.1.8)
卒業して1年経たないうちに集まりました。仕事を楽しんでいる方が多かったです。中には既に転職(榮転)した人も居ました。



尺八部・箏曲部OB・OG「菩提樹の会」(2012.1.14～15)
今回は現役の参加もあり、幅広い年齢層の会となりました。演奏の後の懇親会も盛り上がりました。



2004年度卒業 幼児教育科Bクラス会 (2012.1.22)
7年前に卒業してから久しぶりに集まりました。みんな保育士を続けていて、幼教フェスティバルのDVDを見ながら盛り上がりました。



2009年度 東館ゼミ 卒業生同窓会 (2012.2.12)
こじんまりとした会でしたが、久しぶりに先生や仲間たちと語り合い、楽しい一時を過ごしました。



「昭和47年度 大谷大学洗心学寮入寮生同窓会」寮委員の先輩をお迎えして (2012.2.16)
我々昭和47年に入寮した面々以上に、今回無理を言ってご出席いただいた残留委員の先輩方大変喜んでいただいたのが印象的でした。



男声合唱団OB会(コールリデンクラブ) 総会・懇親会 (2012.2.18)
心を響き合わせ合い合わせる喜びが、いよいよ身に沁みて感じられる昨今です。こうして共に歌う場があることを嬉しく思います。



並木先生 御退職記念懇談会 (2012.2.18)
定年直前の2月、学内諸氏のご支援により学内で「最終トーク会」を開きました。参加して下さった多くの卒業生の皆さん、ありがとうございました！



1971年卒業 廣瀬ゼミ同期会 (2012.2.22)
廣瀬杲先生の「お別れ会」にゼミの30名中、10名が集まりました。先生の慈愛に満ちた写真の尊顔にただ涙が止まりませんでした。



大谷大学東館ゼミ2008年度卒業生同窓会 (2012.3.3)
杉本先生にもご出席をいただき、夜が更けるまで語り合いました。東館先生には、ゼミの2008年度卒業生一同より、東日本大震災の救援金をお贈りいたしました。



史学科東洋史学分野藤島ゼミ1987-88年卒業生合同同期会 (2012.2.25)
ご出席いただいた皆さん、ありがとうございました。今回は、1・2年後の開催を藤島先生がご所望です。



廣瀬杲先生(開光院釈浄泉)お別れの会(2012.2.22)
ゼミ・開光学舎をはじめ様々な場で先生のご指導にたぐって来た多くのものが全国から参集し法会を行いました。



大谷大学卓球部創部80周年・卓球部後援会創設35周年 記念祝賀会 (2012.3.10)
3月10日、大谷大学長の草野先生、片野名誉顧問、三木顧問ご臨席のもと、OB・OG、現役95名が集い旧交を温め合い、盛大で楽しい祝賀の会となりました。

NPO法人尋源舎企画 第3回海外研修旅行
世界三大仏教遺跡アンコールワットを訪ねて
織田顕祐同窓会理事長と巡る
「カンボジア6日間の旅」

2013年
3月9日(土)~14日(木)
関西空港集合・解散



旅行代金 **¥168,000**

(他に燃油サーチャージ、空港税、カンボジアビザ代が必要です。)

- ①午前 関空より空路シェムリアップへ 着後専用車でホテルへ(シェムリアップ泊)
- ②午前 アンコールワット見学 午後アンコールトム見学
夕食はカンボジア舞踊のディナーショー(シェムリアップ泊)
- ③午前 バンテアイスレイ遺跡、アキラの地雷博物館、クメール伝統織物研究所見学
午後 巨木に覆われたタプロム遺跡見学、オールドマーケット散策(シェムリアップ泊)
- ④陸路シェムリアップからプノンペンへ 途中アンコール時代のアーチ橋、サンボールブレイクック遺跡見学、国連ボランティア中に殉職した中田厚仁さんを記念する学校訪問(プノンペン泊)
- ⑤終日 プノンペン市内観光(王宮・シルバーバゴダ・国立博物館・カンボジア仏教総本山ウナーロム寺・ツールスレン博物館など) 夕食後空路帰国
- ⑥朝 関西空港着 通関後解散

※尋源舎は大谷大学同窓会が設立母体となって活動しているNPO法人です。
※尋源舎会員は旅行代金が¥3,000割引かれます。
※詳しくは下記にお問い合わせください。

旅行申込み・お問合せ：
国土交通大臣登録一般旅行業第1516号 日本旅行業協会会員
(株)キャラバンツアー大阪支店 担当：柏井
〒550-0005 大阪市西区西本町1-2-19 千代田ビル5F
TEL:06-6532-2202 FAX:06-6532-2893



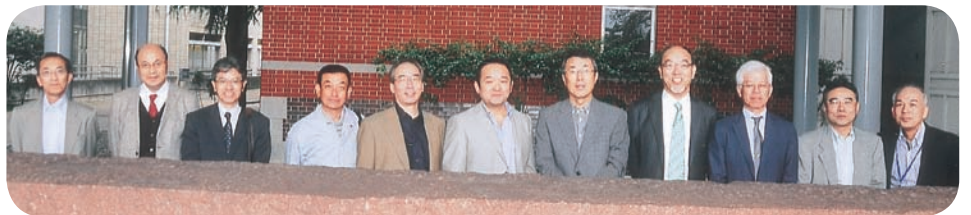
1993～1995年卒業 哲学倫理学ゼミ会 (2012.3.17)
卒業以来初の同窓会。久しぶりの再会とは思えない程、学生時代と変わらない楽しい一時を過ごせました。今回、仕事等の関係で参加できなかった方も多かったので次回の開催を約束しました。



寺林先生の定年退職を祝う会・2011年卒業 寺林ゼミ同窓会 (2012.3.24)
寺林先生が定年退職されるということで1年ぶりに集まりました。寺林先生のダジャレは健在でとても楽しく有意義な時間でした。



大谷大学33同期会 in関西 (2012.4.9～11)
4月9日～11日、本山で物故者の追悼会の後、高田本山の御遠忌に参拝。伊勢の名所を巡って、唯門のお墓に詣で、吉野の桜をめでた。遠方の学友夫妻の参加もあり、賑やかに旧交を温め、明年5月の再会を期した。



昭和45年育英学寮同期会 (2012.4.19)
尋源講堂において昨年選浄した中村法雄君の追弔会を厳修し、場所を木屋町「北村」に移して懇親会。故人を偲びつつ旧交を温めた。



寺林先生おつかれさま会 (2005～06年卒業 寺林ゼミ生) (2012.4.21)
ご退職に伴うこの会、少人数一変大勢参加でサプライズ！先生に「心臓に悪い」とのコメントを笑顔で頂き、寺林ゼミの楽しい夜でした。

現観莊嚴論の研究	兵藤一夫 著	定価 9,975円
初期唯識思想の研究	兵藤一夫 著	定価 9,975円
親鸞と危機意識	安富信哉 著	定価 8,925円
聞 一私の真宗学一	安富信哉 著	定価 2,625円
「浄土論註」の思想究明	延塚知道 著	定価 4,000円
講讃 浄土論註 第1巻	延塚知道 著	定価 2,940円
清沢満之と歎異抄	延塚知道 著	定価 800円
続・清沢満之と歎異抄	延塚知道 著	定価 800円
四十八願概説	一楽 真 著	定価 2,940円

文栄堂
(大谷大学 学内書店)

〒604-8091 京都市中京区寺町通三条上る
電話 075-231-4712
FAX 075-223-5243
E-mail buneidou@pf7.so-net.ne.jp



大谷大学史学科(S51年入学) フランス語I-Gクラス同窓会(2012.4.28)
大阪駅前ヒルトンプラザイースト聘珍楼にて二回目の同窓会を開催しました。次回は二年後の秋を予定。



2001年卒業 藤島建樹ゼミ 同窓会 (2012.4.29)
卒業して11年。藤島先生を囲み、近況や学生時代の思い出話に花が咲きました。



大谷大学育英学寮32会 in加賀 (2012.5.8～10)
卒業してから早くも50年余り、出席者も少しずつ減っていますが懐かしさは深まっていることです。



アメリカ民謡研究部(会) OB・OG会 (2012.5.12)
5月12日、「拾得」にて1966年設立当時のOBから現役生に至るまで、年齢差50才、103名の参加で盛大に開催いたしました。



1987年卒業 短期大学部国文科 Dクラス同期会 (2012.5.12)
21年ぶりのクラス会は「顔がわかるかな？」なんて不安も再会後すぐに解消し、予想以上の盛り上がり！京都タワーにも登りました。



知真学寮 第6期生同窓会 (佐々木令信先生を偲ぶ会) (2012.5.26)
寮長、佐々木令信先生の一周忌法要を尋源講堂にて勤修。その後の懇親会では佐々木先生や寮生の頃の思い出を語り合いました。



第36回 浄眼洞 (山田亮賢先生門下生の会) 一夜研修会 (2012.5.26～27)
今年は京都に集いました。テーマは「涅槃経」と親鸞聖人。回を重ねるごとに中味の濃いものとなってきました。今後が楽しみです。



昭和34年入学フランス語 岩見教授を囲む会 (2012.6.11～12)
参加者7名と少ない人数でしたが、岩見教授の出席を賜り、楽しい懇親会を開催しました。



2011年卒業 安井ゼミ同期会 (2012.6.15)
就職して、1年と少し経ちました。みんなの仕事話や近況報告など話がつきませんでした。今回の同期会で仲間の元気な顔が見れました。



第14期 (1980年入寮) 自灯学寮同期会 (2012.6.16~17)
卒業してから、はや30年の時が流れてしまいましたが、多くの方に出席していただき、とても楽しい時間を過ごすことができました。



昭和35年下鴨寮生 同期会 (2012.6.18~19)
ほぼ50年ぶりの再会。お互いの変貌ぶりにちょっと戸惑い、でも一瞬の間に寮時代の面影を重ねて、親しく語り合いました。



大谷大学短期仏教科昭和46年卒業 同窓会 (2012.6.18~19)
当日は24名の出席をいただき、白井先生を中心に旧交を暖めました。40年振りも何のその。20年後の再会を約してそれぞれ帰路につきました。



草野顕之先生の還暦を祝う会 (2012.6.23)
30名近くの卒業生の皆様と、草野先生を囲んで還暦をお祝いさせていただきました。とても和やかな会となりました。



大谷大学 昭和47年卒業 幼教クラス会 (2012.7.1~2)
22名が元気に還暦を迎えさせて頂いたことに喜びと感謝をもって再会しました。大谷大学での学び、出会いの喜びを確認し合い、次回の再会を約束しました。



第37回 大谷大学バスケットボール部
OB・OG会 (2012.7.7)
7/7(土)に第37回となるOB・OG会を開催しました。懇親会では昨年に引き続き、片岡友子会長の呼びかけで、東日本大震災の復興支援として募金を行い、OB・OG・現役から合計17,048円が寄せられました。



昭和50年3月卒業 文学部東洋史学科 同窓会 (2012.7.8)
およそ7年ぶりの再会となりました。お元気な藤島先生にお会いできました。次回も、みんな元気で会えできれば…と思います。



1996年卒業 名畑ゼミ同窓会並びに名畑崇先生の傘寿を祝う会 (2012.7.15)
名畑崇先生の燃ゆるが如き求道心にお浄土を夢見るような美しさを感じました。仏法弘通という強い信念に支えられておりました。



創立40周年記念 大谷大学飛行研究会OB会 (2012.7.21)
出席頂いた40名それぞれが20代に戻った1日でした。今回は45周年です。今回連絡がとれなかった方、是非同窓会本部へ登録下さい。



2007年卒業 文学部 加来ゼミ同期会 (2012.7.26)
卒業してから5年の月日がたちましたが、何年たっても変わらない仲間に時間もあっという間でしたね。



1981年度入学 I-G同窓会 (2012.7.28)
初参加の懐かしい友達も加わって、今のこと、昔のこと、そしてこれからのこと。いっぱいお喋りして、また来年もきっと。



1982~1986年卒業 片岡ゼミ同期会 (2012.7.28 ~ 29)
6年ぶりの開催となりましたが、片岡先生やみんなの元気な笑顔に出逢えて楽しいひとときを過ごすことができました。



大谷大学体育会剣道部 講武会 (2012.8.18)
8月18日(土)に講武会(OB会)の総会を開催しました。道場にて對抗試合と合同稽古を行い、その後、新都ホテルで懇親会を開きました。



昭和60年卒業 渡辺ゼミ同窓会 (2012.8.14)
20代のことも、30代のことも、40代のことも私たちはお互いに知っています。それは、毎年同窓会を開いているからです。さあ、50代!

教育振興資金(募金)への御礼とお願い

大谷大学・大谷大学短期大学部では、教育研究環境の一層の充実を図るために「教育振興資金局」を設置し、募金活動を行っています。このたびはご協力いただき誠にありがとうございます。ご寄付いただきました資金は、教育・研究の充実を図るための環境整備に充ててまいります。

また、大谷大学は文部科学大臣から、特定公益増進法人の証明（所得控除制度）、並びに税額控除に係る証明（税額控除制度）を受けていますので、寄付者（個人）の選択により、どちらか一方の税法上の減免税措置を受けることができます。

今後も引き続き、募金のお申し込み受け付けを行っておりますので、ご支援賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

2011年8月1日から2012年7月31日までの間に、ご寄付いただきました方々のご芳名は次のとおりです。厚く御礼申し上げます。

◆件数 108件
◆寄付金総額 29,360,000円

2011年度分

[教育振興資金寄付者（敬称略）]

松木 正寿（新潟県）	綾澤 龍丸（香川県）	石倉善八郎（滋賀県）	安藤 智秀（愛知県）	佐賀枝夏文（滋賀県）
長谷岡英信（兵庫県）	難波 明則（大阪府）	湯川 健司（和歌山県）	関 英隆（新潟県）	野口 文雄（愛知県）
南 且好（京都府）	桑原 英世（栃木県）	裸 正人（滋賀県）	小堀 賢一（京都府）	森本 洋（鳥取県）
樽谷 和幸（広島県）	奥林 暁（大阪府）	牧野 豊丸（福井県）	古橋 浩一（滋賀県）	木越 康（京都府）
高坂 美咲（岡山県）	嶽小原 晃（鹿児島県）	小野内悦二郎（京都府）	本多 敬（愛知県）	浅田 純（長崎県）
三井 英俊（愛知県）	吉川 久雄（京都府）	山田 秀善（京都府）	藤坂 初裕（富山県）	小野 隆志（鳥根県）
稲葉 是邦（京都府）	和田 一馬（滋賀県）	中島 繁美（福岡県）	石川 易（愛知県）	三松 高一（福岡県）
山田 恵潤（三重県）	渡邊 登（京都府）	高村 延芳（京都府）	寺田 彰（石川県）	松代 暢（石川県）
柄谷 勉（兵庫県）	青山 直人（滋賀県）	新井 義清（京都府）	野瀬 繁和（滋賀県）	雲井 昭善（滋賀県）
渡邊 恵円（新潟県）	真継 秀雄（京都府）	中村 寿雄（静岡県）	梅溪 得文（岐阜県）	天山 敬信（愛知県）
小菅 宏造（新潟県）	柏樹 利昭（愛知県）	福島 達暁（広島県）	巽 正俊（大阪府）	瀧山すはの（富山県）
高原 弘志（滋賀県）	立野 幸雄（富山県）	安江 一博（北海道）	田原 宏章（大阪府）	末森 潤（石川県）
親跡真由美（新潟県）	大野 康正（岡山県）	林 弘己（長野県）		
宍石間企画事務所（東京都）	円徳寺 [藤谷 伸宏]（山形県）	大願寺 [北 秀継]（北海道）		
浄宝寺 [島津 知道]（鹿児島県）	長照寺 [細川 淳]（愛知県）	西念寺 [梅溪 得文]（岐阜県）		
本覚寺 [渥美 芳映]（石川県）	三寶寺 [目崎 薫]（神奈川県）			

◆件数 86件
◆寄付金総額 26,590,000円

2012年度分

[教育振興資金寄付者（敬称略）]

浅居 俊弘（滋賀県）	井田 謙（福岡県）	清水 正一（富山県）	橋本 一哉（兵庫県）	暉 了（新潟県）
吉田 康徳（北海道）	石黒 正秀（富山県）	鶴子 忍（京都府）	亀井 廣道（長崎県）	石島 理恵（石川県）
安本 浩樹（広島県）	本田 裕二（和歌山県）			
三寶寺 [目崎 薫]（神奈川県）	聖徳寺 [青木 哲心]（北海道）	浄雲寺 [相馬 温]（大分県）		

(株)フラットエージェンシー（京都府）
匿名（個人5名、法人1団体）

◆件数 22件
◆寄付金総額 2,770,000円

※ご寄付につきましては随時受け付けています。

【お申し込み／お問い合わせ先】教育振興資金事務局

京都市北区小山上総町
大谷大学校友センター内
TEL 075-411-8124

雲井昭善名誉教授から 高額寄付を受ける

2012年2月17日、雲井昭善名誉教授から、大谷大学の建学の理念に基づく人物育成を目的とする奨学金の設立のために2000万円のご寄付をいただきました。

雲井先生は、1947年副手として勤務されて以来、1981年にご退職されるまで一貫してインド学を担当、本学の教育・研究にご尽力さ

れました。

このご懇篤なご寄付を行なわれた雲井先生に対し、学校法人真宗大谷学園は感謝の意を表して、安原晃理事長より感謝状が贈呈されました。感謝状は2012年2月29日、大津市の雲井先生のご自宅に記念品と共に草野顕之学長より届けられました。

本学は、雲井先生と先年亡くなられたご夫人の「若い学生さんの育成に役立ててほしい」というご



雲井昭善氏(左)に草野学長から感謝状を贈呈

意向に沿って、人物・学業成績が優秀、かつ学費の支弁が困難な学生に給付する「雲井奨学金」を設立する予定です。

本部報告

2011年度「卒業・修了ならびに同窓会新入会員歓迎祝賀会」を開催

大谷大学・同大学院・大谷大学短期大学の「2011年度 卒業証書ならびに学位記授与式」が2012年3月16日に挙行され、式典終了後、グランドプリンスホテル京都を会場に「大谷大学卒業・修了ならびに同窓会新入会員歓迎祝賀会」が開催されました。



藤島建樹同窓会長の挨拶

この祝賀会は、卒業・修了をお祝いすると同時に、「同窓会」への入会を歓迎する「歓迎会」としての意味を込めて、「大谷大学」と「同窓会」が共催する祝宴です。

草野顕之学長、藤島建樹同窓会長の祝辞の後、卒業・修了生を代表して片山亜美さん（2010年度中央執行委員長）、禿朋隆さん（2011年度体育会長）、廣瀬仁さん（2010年度学園祭実行委員長）の挨拶・乾杯の発声で祝宴が始まりました。

アトラクションでは短期大学部幼児教育保育科卒業生全員による合唱と、教職員・卒業生有志による寮歌を披露していただき、祝賀



(左より)片山亜美さん・禿朋隆さん・廣瀬仁さんによる乾杯



恩師との歓談

会は大変盛り上がりを見せました。また、学生生活も最後となるこの日、一時を惜しむかのように和やかな雰囲気の中、恩師そして友だちとの語り合いが続けられていました。

なお、2011年度の同窓会学生支援表彰「菩提樹賞」につきましては、団体・個人ともに推薦がありませんでしたので、あわせてご報告いたします。

2012年度「同窓会総会」開催【報告】

2012年5月10日午後1時30分より、博綜館第1会議室において、本年度の同窓会総会が開催されました。

議長に福岡支部長の轡水良夫氏を選出。各議案について活発な審議をいただき、それぞれ承認を得ました。

1. 2011年度事業報告および収支決算報告(次頁「収支決算書」参照)

昨年度の同窓会総会で決定しました、同窓会における「東日本大震災」の対応について、以下のとおり事務局より報告されました。

「同窓会理事会」「総会」ならびに各支部で開催された「夏季八十講」等における救援金は、773,923円でした。この救援金と、2010年度に中止された「卒業・修了祝賀会」の開催費相当額の150万円につきまして、大谷大学同窓会より日本赤十字社へ送金されました。

また、2011年度卒業年次生への支援として承認されました「学費免除・減額対象者（東日本大震災での罹災に限る）に対する入会金



同窓会総会(博綜館第1会議室)

免除」につきましては、結果、2名の在学生に対して免除されたことが事務局より報告されました。なお、この2名の終身会費につきましては、2011年度後期学費納入時の徴収を猶予しています。

2. 役員改選について

2012年4月に副学長制が設けられ、学監・副学長に水島見一教授が就任しました。その学監・副学長の役職充て職として、水島教授の常務理事への就任について事務局より報告されました。また、佐賀枝夏文理事長から辞意表明があったことが報告され、それに伴う理事の選出について審議いただきました。

審議の結果、理事については織田顕祐教授の就任が承認されました。もう1名の理事の追加については、人選が終わり次第、常務理事として就任いただくことが総会で了承されました。その後開催された理事会において、互選により理事の中より織田教授が理事長に選出され、再開された総会の席上で、藤島建樹会長より理事長に任命されました。

3. 同窓会活動企画推進委員会に関する件

稲垣俊一第1部会長、宮崎健司常務理事（第1部会学内担当）から第1部会の部会活動報告がなされた後、「第17回ホームカミングデー開催要項（案）」が提案され、承認されました。

続いて、柴田達也第2部会長、一楽真常務理事（第2部会学内担

当) から第2部会の活動報告ならびにNPO法人「尋源舎」の活動について、報告がなされました。

4. 2012年度事業計画および収支予算(案)(右記「収支予算書」参照)

原案どおり可決承認されました。

5. その他

「1913年11月9日赤レンガ造本館(尋源館)竣工式」から100周年を来年度に迎えるにあたり、大学と同窓会が協力して記念行事を行なうことについて、藤島同窓会長より提案がなされました。

企画(案)については、同窓会活動企画推進委員会第1部会ならびに第2部会を中心に検討を行い、次年度同窓会総会で提案することが了承されました。

2011年度 大谷大学同窓会本部収支決算書	
【収入の部】 (単位 円)	
科 目	決算額
1. 前年度繰越金	5,679,219
2. 会 費	27,069,000
会費(1)	2,109,000
会費(2)	24,960,000
3. 入 会 金	4,165,000
4. 出版物等売上金	719,700
5. 出版事業積立金からの繰入収入	0
6. 雑 収 入	2,736,327
合 計	40,369,246

会費(1): 1990年度以前卒業生の終身会費・通常会費
会費(2): 2011年度卒業・修了生の終身会費

【支出の部】 (単位 円)	
科 目	決算額
1. 事 業 費	12,349,528
本部事業費	3,708,136
支部事業助成費	5,181,282
同期会・OB会等開催助成費	500,000
学生会助成費	500,000
新入会員歓迎費	2,460,110
2. 刊 行 費	3,202,341
無盡燈刊行費	2,548,477
印刷製本費	653,864
3. 事 務 費	5,367,378
本部事務局費	1,176
活動費	564,000
通信費	4,802,202
4. 旅 費	7,025,410
5. 会 議 費	1,240,465
6. 委 託 費	2,067,474
7. 雑 費	1,794,402
8. 同窓会基金への繰入支出	249,839
9. 同窓会活性化準備金	71,400
10. 予 備 費	0
11. 次年度繰越金	7,001,009
合 計	40,369,246

2012年度 大谷大学同窓会本部収支予算書	
【収入の部】 (単位 円)	
科 目	予算額
1. 前年度繰越金	7,001,009
2. 会 費	27,750,000
会費(1)	1,350,000
会費(2)	26,400,000
3. 入 会 金	4,400,000
4. 出版物等売上金	50,000
5. 雑 収 入	1,121,991
合 計	40,323,000

会費(1): 1990年度以前卒業生の終身会費・通常会費
会費(2): 2012年度卒業・修了生の終身会費

【支出の部】 (単位 円)	
科 目	予算額
1. 事 業 費	15,465,000
本部事業費	4,310,000
支部事業助成費	5,455,000
同期会・OB会等開催助成費	700,000
学生会助成費	500,000
新入会員歓迎費	4,500,000
2. 刊 行 費	4,390,000
無盡燈刊行費	3,320,000
印刷製本費	1,070,000
3. 事 務 費	4,504,000
本部事務局費	60,000
活動費	444,000
通信費	4,000,000
4. 旅 費	8,080,000
5. 会 議 費	1,650,000
6. 委 託 費	2,000,000
7. 雑 費	450,000
8. 同窓会基金への繰入支出	0
9. 同窓会活性化準備金	3,000,000
10. 予 備 費	784,000
合 計	40,323,000

同窓生の津村記久子さんが 織田作之助賞を受賞!

本学国際文化学科の卒業生である作家・津村記久子さんが、2011年12月12日に著書『ワーカーズ・ダイジェスト』で第28回織田作之助賞を受賞されました。

津村さんはこれまでにも、2005年6月に第21回太宰治賞、2008年11月に第30回野間文芸新人賞、2009年1月に『ポトスライムの舟』で第140回芥川賞を受賞されています。

津村さんは卒業後、会社勤務を続けながら執筆活動に取り組み、毎年精力的に作品を発表されています。

津村さんの作品の多くは、現代を働きながら生きる人々の日常と苦悩をリアルに表現し、多くの人々にエールを贈り続けています。

同窓会費の納入のお願い

本学同窓会は、同窓の皆さまと母校との連繋を図ることを目的に、同窓会総会等の諸会議の開催、支部総会・夏季八十講への支援、ホームカミングデーの開催、新入会員歓迎祝賀会の開催、会報誌『無盡燈』の発行・送付、ゼミ・クラスの同期会及びクラブのOB・OG会への支援等の事業を展開しています。

このような事業の財政基盤は、同窓の皆さまから納入していただく同窓会費(終身会費と年会費)と寄付金によって賄っています。

現在、同窓会員は約36,000名ですが、そのうち2/3が終身会員(1992年3月以降の卒業・修了生の方は、入会時に終身会費を納入していただいております)、1/3が通常会員(1991年9月以前の卒業・

修了生で終身会員以外の方)となっています。

同窓会活動は、母校の更なる発展のため、側面から大学を支え守り立てて行く意味において、ますますの活性化が強く求められています。このためにも、同窓会活動にどうか皆さまの温かいご理解とご支援を賜わり、年会費または終身会費、寄付金の納入にご協力いただきますようお願い申し上げます。

いずれの場合も、同封の払込取扱票(郵便局扱)をご利用いただけますと手数料は不要です。

なお、通常会員から終身会員への変更も可能です。詳しくは、同窓会本部(075-411-8124)までお問い合わせください。

「第16回ホームカミングデー」を開催（報告）

「第16回ホームカミングデー」が、学園祭（「紫明祭」）開催期間中の2011年11月12日（土）に開催されました。退職された先生や専任教員にもご出席いただき、同窓生やそのご家族など、全国より約240名の参加がありました。

第I部の「集おう！！ 母校で」では、大谷大学の博綜館第1会議室をメイン会場に開催しました。今回は「学園祭期間中の学内散策」や「恩師、旧友との懇談」を楽しんでいただけるように、フリータイムの時間をゆったり設定しました。フリータイム中には、配布された「学園祭模擬店利用券」により在學生との交流も図られました。

また、恒例となりました同窓生の投票による模擬店優秀団体には、トッポギを販売した、国際交流や語学学習を支援する「GLOBAL SQUARE」が選ばれ、翌日の学園祭模擬店表彰で同窓会より表彰されました。



恩師との再会(博綜館第1会議室)

第I部の後半では、参加型イベント「ひっばって大当たり（ふたたび）」を行ない、参加者には全国の同窓会役員ならびに各支部よりご提供いただいた特産品が贈られました。

この特産品は、ホームカミングデーの盛会と同窓会の活性化を願い、ご提供いただいたものです。ホームカミングデー当日までに会場に並べきれないほどのお品が届



参加型イベント「ひっばって大当たり(ふたたび)」

き、会場にて参加者にご披露いたしました。

第I部終了後、「京都ロイヤルホテル&スパ」に会場を移し、第II部「懇親会」が開催されました。恒例となりました「同窓生の活躍紹介」として、今回は本学の卒業生で日本画家・インド美術史家の畠中光享先生（1970年文学部史学科卒業）に、「絵を描くことと「大谷大学」の意味」という講題でお話していただきました。

畠中先生は、同窓会報『無盡燈』108号より表紙絵制作をご担当いただいています。講演では、母校大谷大学への熱い思いについてお話していただきました。その後、畠中先生を囲んでの歓談が行なわれ、参加者一同なごやかな雰囲気の中、盛会裡に終了いたしました。



畠中光享先生の講演



参加者による大学歌斉唱

「第17回ホームカミングデー」のご案内

ホームカミングデーが、今年も学園祭（「紫明祭」）開催期間中の土曜日に開催されます。ホームカミングデーについては従前のII部制を見直し、今年度はI部制で行ないます。

ホームカミングデーのテーマを今年度も「集おう！！ 母校で」と題して、母校・大谷大学にて各種イベントが企画されています。

「恩師、旧友との再会」では思い出話に花が咲き、また、新しい同窓生との出会いがあることでしょう。

参加型イベントとしては、クイズ「谷大ハテナ?～どれがホント?～」を企画しています。参加されている先生・友人・先輩などと相談して、ぜひ全問正解をめざしてください。

イベント参加者には、同窓会役員・支部から寄せられた、全国各地の「銘菓」「銘酒」「農作物」など、沢山の景品を予定しています。

同窓のご友人をお誘い合わせのうえ、母校・大谷大学に是非お越しください。

【開催の概要】

日 時：2012年11月10日（土）

12時30分～16時

会 場：大谷大学

博綜館第1会議室 他

テーマ：集おう！！ 母校で

〈会費無料〉

◇恩師、旧友との再会

◇学園祭模擬店参加

◇参加型クイズイベント

谷大ハテナ?～どれがホント?～

★イベント等の詳細につきましては、同封の「ホームカミングデーご案内」をご覧ください。

敬 弔

同窓会発展のためご尽力賜
わりました同窓会の前理事、
支部長、前支部長がご逝去さ
れました。

前理事・前鹿児島支部長

中村 高澄氏

2012年2月18日 ご逝去

郡上支部長

和田 正之氏

2012年6月11日 ご逝去

前大阪東支部長

松谷 昌英氏

2012年3月17日 ご逝去

前埼玉支部長

旦保 哲夫氏

2012年5月6日 ご逝去

ここに深甚の謝意を表し、
謹んでお悔やみ申しあげます。

支部長・事務局交代のご紹介
ありがとうございました
よろしくおねがいたします

〈岩手支部長〉 藤 枝 剛

(前支部長 金 比呂正)

〈神奈川支部長〉 渡 辺 賢

(前支部長 鶴見 紘)

〈三為会支部長〉 野々山 了 圓

(前支部長 大音祖瑛)

〈湖西支部長〉 川那邊 章

(前支部長 日野 寛)

〈福山支部長〉 水 野 和 成

(前支部長 梅田休申)

〈広島支部長〉 寺 川 大 雅

(前支部長 加藤隆昭)

〈大分支部長〉 相 馬 温

(前支部長 手嶋紀生)

〈長崎支部長〉 藤 井 理 統

(前支部長 田中顕昭)

〈宮崎支部長〉 香 春 有 門

(前支部長 西藤勝信)

〈神奈川支部事務局〉 秦 秀 人

(前支部事務局 佐々木健太郎)

〈尾張学友会支部事務局〉 市 野 智 行

(前支部事務局 一柳淳徳)

〈長崎支部事務局〉 藤 村 強 輔

(前支部事務局 巴陵康夫)

**2012年度「大谷大学・同窓会
全国縦断夏季八十講」ならびに
「支部総会」の開催報告**

今年度も2012年7月から9月にか
けて、「大谷大学・同窓会 全国
縦断夏季八十講」ならびに「支部
総会」を73支部68会場で開催いた
しました。

夏季八十講は、全国に80支部あ
る同窓会支部と、大谷大学とが協
働して講演会を開催するもので、
同窓生・在学生はもとより、一般
市民にも公開され、地域社会の文
化興隆に大きな役割を果たしてい
ます。

特に、「青森支部」「四国支部」
の両支部では、今年度、同窓会が
設立母体となるNPO法人「じんげん尋源
舎」(左下参照)との共催で、「仏
教公開セミナー」として広く市民
に開かれて実施されました。



深川支部



神奈川支部



山梨支部

じんげんしゃ
NPO法人「尋源舎」について

NPO法人「じんげんしゃ尋源舎」は、同窓会が設立母体となって、2006年12月
に設立した、仏教の公開を目的とした特定非営利活動法人です。
尋源舎は、皆さまからの賛助金(一口3,000円)で活動を行っています。

お問い合わせは、大谷大学同窓会本部(TEL・075-411-8124)まで。



NPO法人「尋源舎」リーフレット

2012
年度

大谷大学・同窓会 全国縦断 夏季八十講

統一テーマ：変わるもの、変わらないもの

● 東海地区

静岡県 8月29日(水) 宮崎 健司 教授 変わるもの、変わらないもの 一歴史を学んで思うことー
三為会 8月30日(木) 宮崎 健司 教授 変わるもの、変わらないもの 一歴史を学んで思うことー
尾張学友会 9月5日(水) 木越 康 准教授 変わるもの、変わらないもの
三重 8月22日(水) 水島 見一 副学長 浄土と娑婆
大垣 8月21日(火) 水島 見一 副学長 浄土と娑婆
岐阜 9月7日(金) 〇バート F.D-ズ 教授 親鸞の源信観
郡上 8月23日(木) 水島 見一 副学長 浄土と娑婆
飛騨 8月3日(金) 草野 顕之 学長 日本中世の災害と親鸞聖人

● 北陸地区

富山 8月7日(火) 〇バート F.D-ズ 教授 親鸞の源信観
高岡 8月30日(木) 安富 信哉 教授 公共の思想 一清沢満之を中心にー
金沢 8月6日(月) 〇バート F.D-ズ 教授 親鸞の源信観
能登 8月21日(火) 加来 雄之 教授 無縁と有縁
小松 8月22日(水) 加来 雄之 教授 無縁と有縁
大聖寺 8月20日(月) 加来 雄之 教授 無縁と有縁
福井 9月8日(土) 三木 彰円 准教授 親鸞における『教行信証』の課題

● 近畿地区

長浜 8月5日(日) 〇バート F.D-ズ 教授 親鸞の源信観
湖東 9月8日(土) 村山 保史 准教授 問いを学ぶということ 一清沢満之と曾我量深の場合ー
湖南 8月26日(日) 兵藤 一夫 教授 『捨』ということ
湖西 8月4日(土) 佐賀枝夏文 教授 悲しみやつらい体験
山城 9月15日(土) 織田 顕祐 教授 変わるもの、変わらないもの 一仏性という人間観ー
丹但 8月4日(土) 高井 康弘 教授 変わる『私』、変わらない『私』 一社会学と文化人類学の視点からー
大阪・大阪市・大阪東・大阪南 9月7日(金) 佐賀枝夏文 教授 悲しみやつらい体験
和歌山 8月26日(日) 古川 哲史 准教授 人として生きる 一変わるもの、変わらないものー
奈良 8月25日(土) 浅見直一郎 教授 変わるもの、変わらないもの 一中国土着の神と仏教ー
播磨 9月8日(土) 藤元 雅文 講師 変わるもの、変わらないもの 一親鸞の人間観に学ぶー

● 中国・四国地区

鳥根 9月2日(日) 山田 恵文 講師 変わるもの、変わらないもの 一親鸞の視点からー
岡山 8月25日(土) 門脇 健 教授 埋葬するサル 一人間の基本としての葬儀ー
福山 9月1日(土) 水島 見一 副学長 浄土と娑婆
広島 9月7日(金) 藤元 雅文 講師 変わるもの、変わらないもの 一親鸞の人間観に学ぶー
山口 9月4日(火) 一楽 真 教授 変わるもの、変わらないもの 一人の世の悲しみと喜びー
※ 四国 9月1日(土) 一楽 真 教授 現代人と宗教 一カルトに入信する若者たちー

● 九州地区

福岡 9月1日(土) 山田 恵文 講師 変わるもの、変わらないもの 一親鸞の視点からー
久留米 9月5日(水) 一楽 真 教授 変わるもの、変わらないもの 一人の世の悲しみと喜びー
佐賀 8月26日(日) 門脇 健 教授 埋葬するサル 一人間の基本としての葬儀ー
大分 8月29日(水) 采華 晃 准教授 変わるもの、変わらないもの 一釈尊の生涯はどう伝えられたかー
北九州 8月31日(金) 一楽 真 教授 変わるもの、変わらないもの 一人の世の悲しみと喜びー
長崎 8月30日(木) 采華 晃 准教授 変わるもの、変わらないもの 一釈尊の生涯はどう伝えられたかー
熊本 9月11日(火) 延塚 知道 教授 念仏とは何か
宮崎 8月27日(月) 采華 晃 准教授 変わるもの、変わらないもの 一釈尊の生涯はどう伝えられたかー
鹿児島 8月27日(月) 門脇 健 教授 埋葬するサル 一人間の基本としての葬儀ー

● 北海道地区

函館 7月23日(月) 木村宣彰 名誉教授 物の興廃は人にあり
小樽 7月25日(水) 木村宣彰 名誉教授 日々新たなり
札幌・岩見沢・夕張 7月21日(土) 山野 俊郎 教授 アジャセ王物語にみる罪と償い
砂川 7月4日(水) 沙加戸弘 名誉教授 宗祖親鸞聖人
室蘭 7月24日(火) 木村宣彰 名誉教授 日々新たなり
深川 7月5日(木) 沙加戸弘 名誉教授 生死出ずべき道
旭川 7月6日(金) 沙加戸弘 名誉教授 まことのいのちに出う
十勝 7月22日(日) 山野 俊郎 教授 アジャセ王物語にみる罪と償い
網走 7月27日(金) 沙加戸弘 名誉教授 まことのいのちに出う
紋別 7月26日(木) 沙加戸弘 名誉教授 宗祖親鸞聖人
名寄 7月25日(水) 沙加戸弘 名誉教授 生死出ずべき道
釧根 7月23日(月) 山野 俊郎 教授 アジャセ王物語にみる罪と償い

● 東北地区

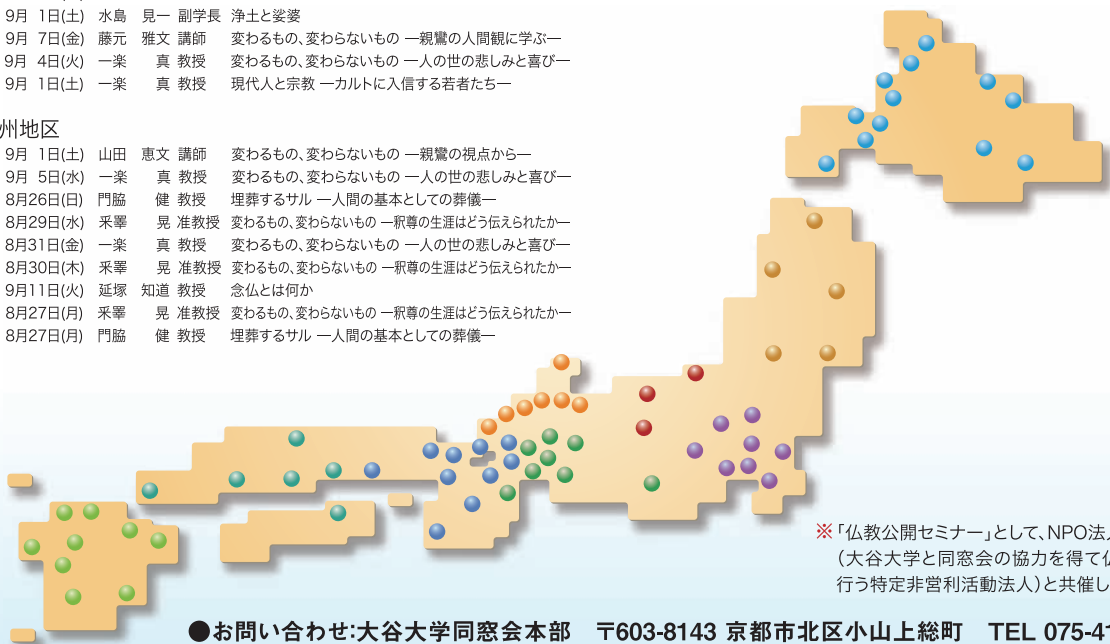
※ 青森 9月18日(火) 沙加戸弘 名誉教授 まことのいのちに出う
岩手 9月4日(火) 志藤 修史 准教授 災害とまちづくり・ボランティア
宮城 9月3日(月) 志藤 修史 准教授 災害とまちづくり・ボランティア
秋田 9月19日(水) 沙加戸弘 名誉教授 生死出ずべき道
山形 9月2日(日) 志藤 修史 准教授 災害とまちづくり・ボランティア

● 関東地区

茨城 8月30日(木) 一色 順心 教授 菩薩の無窮道と私たちの人生
栃木 8月29日(水) 一色 順心 教授 菩薩の無窮道と私たちの人生
群馬 8月28日(火) 一色 順心 教授 菩薩の無窮道と私たちの人生
埼玉 9月8日(土) 〇バート F.D-ズ 教授 親鸞の源信観
千葉 9月2日(日) 水島 見一 副学長 浄土と娑婆
東京 8月31日(金) 藤嶽 明信 教授 変わるもの、変わらないもの
神奈川 8月4日(土) 藤島建樹 同窓会長 変わるもの、変わらないもの 一歴史を見つめてー
山梨 8月5日(日) 藤島建樹 同窓会長 変わるもの、変わらないもの 一歴史を見つめてー

● 信越地区

信濃学友会 8月30日(木) 藤嶽明信 教授 変わるもの、変わらないもの
三条 9月4日(火) 木越 康 准教授 変わるもの、変わらないもの
上越 8月29日(水) 安富 信哉 教授 公共の思想 一清沢満之を中心にー



※「仏教公開セミナー」として、NPO法人「^{じんげんしゃ}尋源舎」(大谷大学と同窓会の協力を得て仏教公開を行う特定非営利活動法人)と共催して行います。

● お問い合わせ:大谷大学同窓会本部 〒603-8143 京都市北区小山上総町 TEL 075-411-8124

グランドデザインが目指すもの

大谷大学・大谷大学短期大学部

学長 草野 顕之

東日本大震災以降、私たちの考え方が大きく変わったように思います。それはおそらく、私たちがこれまでほとんど無自覚的に接してきた「無常」という現実が、2011年の3月11日を期に、極めて身近な私たちで自覚的になったからだと思います。私たちが日々生活している場が、如何に予測困難なのかということ、身に染みて実感したのだと思います。

では、そのような予測困難で不安な現実を、どのようにして生きていけばいいのでしょうか。

大谷大学・大谷大学短期大学部（以下、本学という）は今、18歳人口の減少という課題に直面しています。また不透明な現代社会を生きていく人間を育て送り出していくことが求められています。近代化110周年を迎えた2011年10月13日に「グランドデザイン」を策定した背景は、ここにあります。

すなわち、本学はこれからの教育理念を、親鸞聖人に淵源し、かつ初代学長清沢満之の『開校の辞』にある「自信教人信の誠を尽くすべき人物の養成」や、三代学長佐々木月樵の「樹立の精神」にある「本務遂行」「相互敬愛」「人格純真」の3モットーを基盤に、「仏教精神に基づき、社会を主体的に生きることのできる人物を育成する」と確認したのです。

この教育理念のもと、「グランドデザイン」では、コミュニケーション能力など社会に貢献し、活躍するために必要な具体的能力を明確にし、その育成に努めることを明示した「教育」に関する方針と目標、そして、それを支える「学生支援」「研究」「社会貢献」「管理運営」に関する方針と目標を設定し、取り組んでいくことを表明しています。

つまり、現代社会を主体的に生きる人物を仏教精神に基盤をおく教育活動の推進により育成することを本学の中心課題とし、その実現に向けて定めた5領域の方針と目標から、毎年度ごとの行動計画を立案し推進していくことを全学で確認したものです。本年はその1年目として、その取り組みを進めております。

大谷大学の学問を代表する人間学とは、自己を見つめつつ、他者と共に社会の確かな歩みを実行できる人物を養成する学問であり、そのような人間学によって身につく力を「コミュニケーション能力」と位置づけました。ここにグランドデザインの肝心が

あります。

ところで「人間学」とは、どのような学問でしょうか。思いますに、人間学とは諸学の基礎学というべき裾野の広い学問であり、単に時流に合うための知識や技術を学ぶ学問ではありません。言い換えれば、人間存在そのものを根源的に学ぶ、普遍的な学問と言えましょう。そういう人間学を親鸞の教えに沿って言えば、真実（本願）に聞思し真の自己を発見する学、つまり「聞思の学」と言えます。しっかりと自分の立つ位置を確かめ、自己の内心から澆刺と湧き出てくる人間力、親鸞で言いますと「欲生心」を掘り起こし「願生心」を発揮せしめる学問のことです。私たちは、そのような人間力があるからこそ、不透明な時代を生き抜くことができるのです。

人間社会は人と人との触れ合い、相互にコミュニケーションすることによって成り立っています。とくに昨年の3月11日以来、相手の立場に立つことのできる「人間力」が求められているように思います。すなわち、相手の言い分にしっかりと耳を傾け、相手の立場を理解し、そしてお互いに自然に声をかけあうことができるという、成熟した人間関係性が強く求められています。したがって現代では、人と人との関係性において、この私が不断に真の私になっていく必要があるのです。私の中に、人と共に生きんとする人間力を醸成しなければなりません。そして、この人間力を土台としてコミュニケーション能力を身につけるのです。ここに大谷大学の教育の社会的使命があります。

昨今のテレビなどを見ておきますと、瞬間芸のような切り返しによって笑いを取るようなコミュニケーション、あるいは、相手を言い負かし自分の言い分のみを流暢に披露する、というようなコミュニケーションが流行っているように思います。そうではなく、まずはしっかりと自己を確立し、そして相手を独立者として尊重することにおいて成り立つコミュニケーション能力が、今まさに社会から要請されているのです。グランドデザインはそれに応えていこうとするものなのです。

卒業生の皆様におかれましても、今後の大谷大学の取り組みにご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

同 窓 通 信

「工芸に現れるもの」

山 田 潤

(1994年短期大学部・文化学科卒業)

私は本学卒業後、国立高岡短期大学で木工芸を学び、現在は指物を中心に手で木のものを作っている。

良い作品を作るためには、良い材料を選び、デザインを工夫し、技術を養うことが大切で、一般的に作り手はその向上を心掛けるものである。

しかし昔の人の作品などを見ると、そういった個々の要素の善し悪しだけで作品が成り立っているのではないことに気づく。姿の良さや仕上げの美しさも見どころの一つではある。しかし手で作ったことによる味わいや、全体からなんとなく感じる雰囲気というものにこそ、我々は心を動かされているのではないか。工芸の本当の価値は、デザインや技術を超越して、作品に現れた作り手の心が、観る人の心を動かしているのではないかと最近思うようになった。

例えばノミで彫った痕一つにも、そこには彫った人の心の状態が現れている。ノミぐらひは思うように使えそうなものだが、必ず無意識的な要素が働く。そしてそれはノミ痕一つにとどまらず、全体にも統一して現れてしまう。隠そうとしても隠せない。私はそれが工芸の「芸（藝）」ではな

いだろうかと考えた。

それは、いくら専門に修行してもどうなるものではない。むしろ直接関係のない様々な経験や環境といった

ものが人間性に影響し、それが間接的に作品に現れているのではないだろうか。

私が本学で学んだことと、今やっている木工芸とは直接の関係がない。しかし間接的に必ず大きな影響を与えているはずである。在学中、最も衝撃を受けたのは沙加戸弘先生の講義であった。内容よりも、それに派生する諸々のお話をされるときの熱っぽさが一番印象に残っている。これも先生のお心と博識とが「話芸」として現れていた、といえるかもしれない。これが廻りまわって…私の作るものにも…、となれば大変有難いお話である。

(指物師／刃物技術者)



現役教員からのお便り ▶▶▶

変わるもの、変わらないもの

大谷大学教授（真宗学） 一楽 真

同窓生の皆さん、お元気でいらっしゃいますか。卒業なさってからどれくらいの歳月が経ったでしょうか。その間には嬉しいことや悲しいこと、様々のことがあったと思います。とても一くくりにはできませんね。

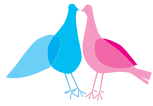
私個人のことで恐縮ですが、1976年の春に大谷大学に入学して以来、すでに36年が過ぎました。何をしてきたのだろうと思う反面、いろいろお育てにあずかったという思いが強くなります。もちろん、現在でも学生そして世間との関わりの中で課題をもらいながら歩まされているのですが。

キャンパスの雰囲気は一新し、かつての大谷大学を知る先輩諸氏からは「変わった」という声が

多く寄せられます。ただ、「本物に出会いたい」「自分の生きる道を見つけたい」、そんな学生達の熱気は今も変わることはありません。その熱い思いの一つひとつに回答すべく大谷大学が存立していることも、昔と変わらないと思います。いや、これだけは変わってはいけないことだと思っています。

卒業生の方々のお声に励まされながら、また歩んでいきます。京都にお越しの際には、ぜひともお寄りください。





ご結婚おめでとうございます

幸せなご家庭を築かれることを念じ申し上げます。
()内は最終卒業・修了年〈敬称略〉 ※同窓会本部掌握分



※大谷大学尋源講堂で仏前結婚式をお受けしています。
お問い合わせは、総務課(Tel.075-411-8163)まで。

- | | | | | | |
|---------------|---|---------------|---------------|---|---------------|
| 吉岡 俊幸 (1998修) | ● | 伊達 晴香 | 山崎 浩史 (1995文) | ● | 江藤 弥生 |
| 鈴木 善幸 (2005博) | ● | 上垣みちえ (会友) | 新保 宗証 (2005文) | ● | 大森 友絵 |
| 平 宣裕 (2010修) | ● | 北條いづみ (2010修) | 白神 雄介 | ● | 近藤 聡子 (会友) |
| 置田 浩之 | ● | 森川 弘美 (1996短) | 泉 唯夫 (2009文) | ● | 小代阿弥華 (2009文) |
| 中垣 友彦 (1999短) | ● | 本田 英実 | 苗村 隆之 | ● | 徳正 絢子 (会友) |
| 吉岡 敬介 (2001文) | ● | 束川 瞳 | 幸山 聡太 (2006文) | ● | 天野 寛子 (2004短) |

敬 弔

ご生前のご功勞を偲び、謹んで哀悼の意を表します。
()内は最終卒業・修了年〈敬称略〉 年月日はご逝去された日付

※同窓会本部掌握分

- | | | |
|----------------------------|-----------------------------|----------------------------|
| 齋藤 義宣 大専門 (1946) 2009・9・18 | 米本 義孝 会友 (一) 2011・9・4 | 小幡 大秀 大専門 (1940) 2012・1・8 |
| 野村奈津代 短期 (1985) 2010・3・26 | 吉川 光枝 文学部 (1982) 2011・9・11 | 本多 正治 文学部 (1962) 2012・1・9 |
| 白井 史朗 大学部 (1943) 2010・9・2 | 古塚 恵秀 大学部 (1947) 2011・9・14 | 桑原 持 文学部 (1953) 2012・1・22 |
| 富永 真 文学部 (1961) 2011・1・10 | 榎並 尊雄 短期 (1955) 2011・9・15 | 小柳 上昇 文学部 (1959) 2012・2・1 |
| 朝倉 喜祐 大学部 (1942) 2011・1・11 | 堅田 修 大学部 (1950) 2011・9・15 | 畠山 秀憲 短期 (1954) 2012・2・5 |
| 別府 信空 博士 (1965) 2011・1・30 | 菜原 光陽 修士 (1977) 2011・9・20 | 前田 紘陽 文学部 (1963) 2012・2・5 |
| 阿野 文雄 文学部 (1973) 2011・1・31 | 寺真 典仁 大専門 (1951) 2011・9・25 | 日野 彰史 短期 (1955) 2012・2・15 |
| 千田 靈照 大学部 (1953) 2011・2・23 | 大谷 祐馨 大専門 (1939) 2011・9・26 | 中村 高澄 文学部 (1955) 2012・2・18 |
| 蔭山 敏 文学部 (1962) 2011・3・28 | 脇坂 孝雄 大専門 (1942) 2011・9・28 | 喜多川恒男 会友 (一) 2012・2・19 |
| 三浦 利彦 文学部 (1968) 2011・3・31 | 蒲池 栄照 文学部 (1988) 2011・9・30 | 増田 正順 修士 (1970) 2012・2・27 |
| 石井 廣美 文学部 (1971) 2011・4・17 | 野間 孝 文学部 (1975) 2011・9・30 | 板先 見一 大学部 (1946) 2012・3・2 |
| 野々山卓美 文学部 (1988) 2011・4・25 | 藤認 順正 大専門 (1941) 2011・9・30 | 白井 豊賢 大学部 (1953) 2012・3・12 |
| 田代 昌 大学部 (1944) 2011・4・27 | 長谷川恵美子 文学部 (1974) 2011・10・3 | 伊賀 闌信 大学部 (1950) 2012・3・17 |
| 高橋 孝明 文学部 (1967) 2011・5・13 | 加藤 敬信 大学部 (1944) 2011・10・7 | 松谷 昌英 文学部 (1960) 2012・3・17 |
| 南木 昭 大学部 (1950) 2011・5・13 | 木造 眞典 文学部 (1973) 2011・10・17 | 水野 尚志 文学部 (1964) 2012・4・2 |
| 藤井美和子 文学部 (1977) 2011・5・19 | 永尾 有正 大専門 (1951) 2011・10・21 | 小林 光麿 文学部 (1965) 2012・4・8 |
| 横山 義孝 短期 (1955) 2011・5・24 | 松川 晋也 文学部 (1964) 2011・10・27 | 正立 啓之 文学部 (1959) 2012・4・9 |
| 藤川 力 文学部 (1966) 2011・6・5 | 篠岡 暁 大専門 (1951) 2011・10・28 | 藤田 昭彦 会友 (一) 2012・4・10 |
| 雨森 有慶 大学部 (1940) 2011・6・8 | 龍池 義卿 大学部 (1947) 2011・11・1 | 山崎 寿浩 大専門 (1946) 2012・4・10 |
| 桑原 彰徳 大学部 (1947) 2011・6・10 | 多屋 真 大学部 (1951) 2011・11・25 | 安藤 超 文学部 (1981) 2012・4・30 |
| 白藤 文昭 文学部 (1959) 2011・7・7 | 土肥 暁 博士 (1963) 2011・11・29 | 片岡 清整 大学部 (1938) 2012・5・2 |
| 岩田 彰教 大専門 (1943) 2011・7・23 | 亀井 法隆 大学部 (1947) 2011・11・30 | 松村 成然 大学部 (1951) 2012・5・4 |
| 森川 宗和 文学部 (1968) 2011・7・30 | 大村 昭 文学部 (1955) 2011・12・6 | 旦保 哲夫 修士 (1973) 2012・5・6 |
| 守城 堯 大学部 (1953) 2011・8・2 | 鷲山 樹心 博士 (1961) 2011・12・8 | 河采 智船 大専門 (1950) 2012・5・7 |
| 牧本 章 文学部 (1975) 2011・8・11 | 大塚 順了 大学部 (1948) 2011・12・9 | 上野 諦 大学部 (1953) 2012・5・28 |
| 平林 繁 文学部 (1954) 2011・8・14 | 服部 充麿 文学部 (1960) 2011・12・13 | 櫻部 建 大学部 (1947) 2012・6・9 |
| 奥林 享 大学部 (1936) 2011・8・18 | 箕浦 恵了 博士 (1963) 2011・12・16 | 近藤 孝道 文学部 (1981) 2012・6・11 |
| 仁科 慈 文学部 (1957) 2011・8・21 | 崖 彰辰 大学部 (1940) 2011・12・29 | 佐藤 義寛 博士 (1989) 2012・6・11 |
| 藤岡 俊了 大学部 (1947) 2011・8・23 | 廣瀬 泉 大学部 (1953) 2011・12・30 | 和田 正之 文学部 (1964) 2012・6・11 |
| 高谷 俊賢 文学部 (1956) 2011・8・24 | 笹埴 彰 大学部 (1946) 2011・12・31 | 藤谷 昌紀 博士 (2003) 2012・7・15 |
| 高木 信明 大専門 (1934) 2011・8・28 | 長谷 昱文 大学部 (1944) 2011・12・31 | 佐々木剛正 大専門 (1950) 2012・8・2 |
| 近松 誉一 大学部 (1952) 2011・8・28 | 多藝 貢 大学部 (1946) 2012・1・2 | 松扉 堯 大学部 (1943) 2012・8・18 |
| 小笠原法秀 文学部 (1964) 2011・9・4 | 平野 顕照 大学部 (1953) 2012・1・5 | |

「漢文と点字」

近年、大谷大学においても、聴覚や視覚に障がいのある学生、あるいは肢体不自由などの学生が増え、日々それぞれの専門において学業にいそむ姿が日常のものとして見られるようになってきている。聴覚障がいの学生がノートテイクとともに熱心に受講する場には、これまでも講義担当者として接することがあった。その程度の経験を持つに過ぎなかった筆者が、今回は視覚障がいの学生を、2010年度の第2学年からゼミ生として指導することとなった。

筆者の専門の中国史、中国仏教史で扱うテキストは、全て漢文である。障がいのない学生ばかりを相手にしてきた当たり前が当たり前ではなくなった。先ずもって、当の学生は表意文字である漢字を漢字のままに目に見ることができない。視覚障がい者は、基本的に音のみの環境にあり、漢文を棒読みしたところでそれは音の羅列に過ぎず、何も意味をなさない。訓読文だけではそれは漢字仮名まじり文語文であり、同音異義が多く、実に分かりづらい。一方、ゼミにしてもまた文献講読にしても、それらの授業には障がいのない学生の数が当然ながら多い。どうするか。

定評のある邦訳を持つ文献を選び、障がいの有無にかかわらず、受講生には全て漢文テキストのほか

に訳文を配布する。その際、訳文については、スキャナーで読み込み、データ化する→データ化した訳文の点検→全ての漢字にルビを打つ→再点検→教務課の点字ソフトにかけ点字化→点字化した訳文を教務課より手渡し—の順序によって障がい学生に事前に配布され、漢文テキストについては、当該授業の前、一週間以内に、当の学生と個人研究室において訓読文の読み合わせを行ない、当人はその場で点字に打ちこみ、手元に持って授業に臨む。賛否はあるにせよ、漢文の訓読文、いわば原文の直訳を当の学生にとっての原漢文として扱う形をとり、そのうえでなぜこのように訓読され、現代語に移され、あるいは意識されるのかを検討する授業方式とした。こうして、これまでに史記・漢書・三国志などの正史や仏教史文献を読んできた。次の段階は学術論文の点字化である。

昨年度からは本人の希望リストにもとづき、学術論文十数本の点字化を大学院生の諸君の協力を得て進め、今年度6月の時点でほぼ完了しつつある。当の学生は至って優秀であるが、これからは卒業論文作成に向けて、より高度の理解力が必要となる。と同時に筆者にも、漢文の世界に対する新しい知見が求められることとなろう。

大谷大学教授 大内 文雄

表紙絵 「合掌」

73×53cm 2012年作

仏さまにお参りするときに両手を合わせ、合掌します。インドではあいさつをする時に「ナマステ」、もう少し丁寧に言いますと「ナマスカール」と言います。これはあなたに対して合掌しますという意味がありますので合掌して言わなければなりません。合掌する姿は美しいものです。

今春初めてビルマ（ミャンマー）に行きました。私はビルマにいた間中1957年に大谷大学を卒業されている池田正隆先生の著書『ビルマ仏教』を持ち歩きましたが、それはそれは興味深い本です。仏像のこと、経典に巻く紐のこと、蓮糸から織った布のことの調査が目的でしたが、どれも予想以上の収穫がありました。バガンの3,000ものパヤー（仏塔）や仏殿にあたるグーには11世紀から13世紀の壁画が、稚拙さや安価な酸化鉄系統の絵具を中心に緑青を用いて、傷みが多いながらも大量に残っているのも興味深いものでした。バガンの仏像は中国の元朝の攻撃にあり、14世紀にはそのほとんどが破壊されました。現在はバガンだけでなくビルマの仏像のほとんどが今様に修復され、頭光は電飾化され、赤やピンクで化粧された唇は妙になまめかしいのですが、そういった修復も仏教が人々と共にあることの証といえます。どこにいても

早朝は托鉢する出家者と供養するために夜明け前から米を炊いて待つ人々に出会います。旧都ヤンゴン（ラングーン）の中心には100メートル近い高さのシュエダゴンパヤーがありますが、その巨大な仏塔のまわりには、合掌をして願いを唱えている人々を限りなく見かけます。現世の利益を求めるのも人間の自然な心なのかと思いました。合掌して祈る姿の美しさもあらためて感じさせられました。

畠中光亨（1970年文学部卒業）

日本画家 大谷大学非常勤講師

〈展覧会のお知らせ〉

- New Delhi All India Fine Art & Craft Society（日印国交60周年記念企画展）10月8日～10月31日
- Artist Group 一風一（中島千波、中野嘉之、畠中光亨による大作の新しい公募第1回展）10月20日～10月28日 東京都美術館
- インドの細密画と染織展（畠中光亨コレクション）11月3日～12月26日 新潟市新津美術館

2012年9月20日発行

発行 大谷大学同窓会本部
編集 『無盡燈』編集委員会

〒603-8143 京都市北区小山上総町 大谷大学校友センター内
電話 (075) 411-8124 FAX (075) 411-8157
振替 01020-9-20542

同窓会ホームページ <http://www.mujiinto-otani.org/>

E-mail:kouyu@sec.otani.ac.jp

『無盡燈』の題字について 親鸞聖人の真蹟の坂東本『教行信証』から集字したものです。『維摩経』に「無盡燈というのは、譬えば一つの燈をもって百千の燈をともしようなものである。冥やみがみな明るくなるが、その明りはついになくなることがない。…説かれた教えのとおりにもずから一切の善いことがらを増しふやす。これを無盡燈となづける」とあり、先輩がともし続けた伝統に輝く燈の名に恥じないことが願われています。